

I

共同研究

1. 基幹研究

【近世地域アーカイブズの構造と特質】

プロジェクト代表者：大友一雄

プロジェクト参加者：大高洋司、渡辺浩一、西村慎太郎、山田哲好、青木 睦、入口敦志、加藤聖文、
工藤航平、中野達哉（国文学研究資料館客員教授・駒澤大学教授）、久留島浩
（国立歴史民俗博物館教授）、白井哲哉（筑波大学准教授）、高橋 実（国文学研
究資料館名誉教授）、西向宏介（広島県立文書館副主任研究員）、東 昇（京都
府立大学准教授）、松澤克行（東京大学史料編纂所准教授）、山崎一郎（山口県
文書館専門研究員）、山崎 圭（中央大学教授）、吉村豊雄（熊本大学教授）

(1) 概 要

今年度は、館蔵の地域史料や商人史料、地域の史料保存機関が所蔵する史料を主な対象に、昨年に引き続き①文書・書籍の作成や管理・保存、ならびに利用や廃棄のシステムを歴史的に究明する研究、②伝来経緯や環境に留意し組織の構造・機能との関連で資料群の全体像を理解する研究、③これらの情報を踏まえた整理記述、モノそのもののコントロールについての研究という、3つの柱を設定し、研究会・資料調査を実施し、その成果をデータベース作成に生かし、実際に公開した。また、研究成果編集ワーキングを内外の分担者によって立ち上げ、刊行計画をまとめると同時に研究会を頻繁に開催し、各研究成果の調整を行った。研究論文集を次年度に刊行する準備をほぼ整えることができた。

(2) 活動記録

[研究会]

研究組織メンバーなどを中心に5回開催した（一部は科研費による研究課題との合同研究会）。

・第1回研究会

平成24年5月12日（土） 国文学研究資料館第2会議室

- 1 東 昇「石清水八幡宮の神人文書と朱印状管理」
- 2 山崎 圭「山田庄左衛門家文書の史料群構造」

平成24年5月13日（日） 国文学研究資料館第2会議室

- 1 工藤航平「近世の村役人と史料群構造－武州幡羅郡中奈良村野中家を事例に－」
- 2 山崎一郎「近世武家文書の様式と色－萩藩一門穴戸家家中を例にして－」
- 3 榎本 博「近世における『家』と情報管理」

・第2回研究会

平成24年7月14日（土） 国文学研究資料館第2会議室

- 1 種村威史「徳川将軍家の宝物管理について－紅葉山東照宮における－」
- 2 来見田博基「鳥取藩の御用紙統制と藩校の記録について」

平成24年7月15日（日） 国文学研究資料館第2会議室

- 1 藤田雅子「土佐藩主山内家伝来文書の構造－目録編成作業に向けた基礎的考察－」
- 2 原田和彦「松代藩における地方支配と文書－善光寺地震を素材として－」

・第3回研究会

平成24年9月1日（土） 国文学研究資料館第2会議室

- 1 太田富康「アーカイブズ編成記述の動向と課題」
- 2 森本祥子「編成記述における組織文書と非組織文書の共通性と個性－オーストラリア・シリーズ・システムの理解から」
- 3 加藤聖文「個別文書の構造と編成記述－実用性からの視点－」
- 4 清水善仁「組織体の機能構造とアーカイブズ編成－大学アーカイブズを中心に－」
- 5 柴田知彰「アーカイブズの内的秩序分析と構成理論」
- 6 渡辺浩一「日本近世・近代在地記録史料群の構造分析方法について」
- 7 山崎一郎「近世武家文書の伝来と文書群構造」
- 8 西村慎太郎「松代八田家文書群の構造」

平成24年9月2日（日） 国文学研究資料館第2会議室

- 1 山崎 圭「地域アーカイブズの史料群構造と文書主義－信州山田家文書を事例に－」
- 2 工藤航平「近世における村役人文書の存在形態と史料群構造－武州幡羅郡中奈良村野中家文書の事例－」
- 3 白井哲哉「地域アーカイブズ資料群目録の記述方法と実践－いわゆる地方文書群を中心に－」
- 4 大友一雄「所替と文書－大名所領の構造と文書群の引渡しシステム－」
- 5 高橋 実「長崎奉行所御用部屋の文書管理とその構造について」
- 6 江藤彰彦「福岡藩の記録仕法と記録管理」
- 7 西向宏介「近世の商家と記録管理」
- 8 青木 睦「近世アーカイブズの紙質調査と組織体の料紙使用－現状と事例報告－」
- 9 東 昇「石清水八幡宮の神人文書と文書認識」

・第4回研究会

平成24年12月1日（土） 国文学研究資料館第2会議室

- 1 大石 学「江戸城大奥アーカイブズに関する一考察」
- 2 太田尚宏「尾張徳川家における記録史料の伝来と管理」

平成24年12月2日（日） 国文学研究資料館第2会議室

- 1 渡辺浩一「水害記録と対策マニュアルの形成－江戸を事例として－」
- 2 戸森麻衣子「幕府勘定所における文書の整理と管理」

・第5回研究会

平成25年1月12日（土） 国文学研究資料館第2会議室

- 1 高橋 実「長崎奉行所の文書管理について－『長崎奉行所の記録管理とその構造について』その1－」
- 2 大友一雄「基幹研究研究成果Ⅱの刊行について」

平成25年1月13日（日） 国文学研究資料館第2会議室

- 1 中野達哉「弘前藩日記役の基礎的研究」
- 2 福田千鶴「藩政アーカイブズと家老文書群」

館内研究会（当基幹研究を推進するための館内研究者による研究会）

・第1回推進研究

平成24年8月28日（火） 国文学研究資料館第4会議室

工藤航平「松代八田家文書群の保管状態と史料群構造」

山田哲好「松代八田家文書群の目録記述と現地調査報告」

・第2回推進研究

平成24年9月19日（水） 国文学研究資料館第4会議室

渡辺浩一「震災地における大般若経救出活動について」

・第3回推進研究

平成24年9月27日（木） 国文学研究資料館第4会議室

工藤航平「松代八田家文書群の目録編成について」

山田哲好「松代八田家文書群の目録刊行と史料群構造」

・第4回推進研究

平成25年3月19日（火） 国文学研究資料館第4会議室

西村慎太郎「真田家文書・公家関係文書のデジタル画像生成と公開について」

・第5回推進研究

平成25年3月26日（火） 国文学研究資料館第4会議室

山田哲好「他機関が有する当館所蔵史料撮影マイクロフィルムの複製について」

大友一雄「バチカン図書館所蔵マリオ・マレガ収集文書調査について」

太田尚宏「茨城・多摩の地域アーカイブズ関係図書の所蔵状況とコレクション形成について」

〔資料調査〕

主要な資料調査は以下の通りである。館蔵真田家文書の研究に関わり、長野市公文書館・真田宝物館所蔵史料の調査を実施した。また、江川文庫・福井県立文書館・京都府立総合資料館・奈良県立図書情報館・飛騨高山まちの博物館・岐阜県歴史資料館などで関連史料の調査を行った。

〔研究成果〕

アーカイブズ情報の編成論研究などを踏まえて昨年度公開したデータベース「信濃国松代真田家文書」（5万2162レコード）に、画像を掲載する実験を行い、391件の文書画像を公開した。なお、これらの画像はマイクロカメラで撮影したフィルムから作成したものであり、画像データベース作成のための一つの工程を実験的に確認することができた。また、編成論研究の成果を踏まえて伊豆韮山江川家文書データベースの情報構造を改め、同時に新規情報3万件を追加公開した。レコード数は4万9115件となった。同様に編成論研究の成果の一部を用いて山城国京都久世家文書、山城国京都徳大寺家文書など公家文書10群の目録データベースを作成し、HPから公開した。

さらに研究会などでの検討を通じて調査収集事業部から『史料目録』第96集（信濃国埴科郡市松代伊勢町八田家文書その5）、『史料目録』第97集（同その6）を刊行した。

また、研究会を通じて論文集の刊行を準備した。刊行は次年度、次々年度を予定する。

【近世における蔵書形成と文芸享受】

プロジェクト代表者：大高洋司

プロジェクト参加者：神作研一、入口敦志、高松亮太、芦田耕一（島根大学名誉教授）、飯倉洋一（大阪大学教授）、井上泰至（防衛大学校教授）、井上敏幸（佐賀大学地域学歴史文化研究センター特命教授）、大石房子（清泉女子大学非常勤講師）、大谷俊太

(京都女子大学教授)、大谷節子(神戸女子大学教授)、大庭卓也(久留米大学准教授)、小川陽子(松江工業高等専門学校講師)、勝又 基(明星大学准教授)、加藤弓枝(豊田工業高等専門学校准教授)、亀井 森(鹿児島大学准教授)、川平敏文(九州大学准教授)、菊池庸介(福岡教育大学准教授)、久保田啓一(広島大学教授)、倉島利仁(静岡学園高等学校教諭)、黒石陽子(東京学芸大学教授)、進藤康子(九州情報大学非常勤講師)、田中則雄(島根大学教授)、中川 豊(帝塚山大学全学共通教育センター講師)、二又 淳(明治大学非常勤講師)、原 豊二(米子工業高等専門学校准教授)、菱岡憲司(有明工業高等専門学校講師)、森澤多美子(静岡県富士見高等学校教諭)、盛田帝子(相愛大学非常勤講師)、山崎真克(比治山大学准教授)、若木太一(放送大学長崎学習センター客員教授)

(1) 概 要

7ヵ所の所蔵先(*)を対象に前年度調査研究を進めた成果を、平成24年度調査研究シンポジウムにおいて報告し、共同研究会を2度開催して、計4チームによる発表と質疑応答を行った。

また、俳文学会東京例会主催のシンポジウム「大名と俳諧」に国文研共催として参加した。

*八戸市立図書館南部家旧蔵本(青森県)・矢口丹波記念文庫(群馬県高崎市、矢口家〈八幡八幡【やわたはちまん】神社〉)・新日吉神宮蘆庵文庫(京都市、新日吉神宮)・祐徳稻荷神社(佐賀県鹿島市、鍋島家)・三島市郷土資料館勝俣文庫(静岡県、勝俣家)・富加町郷土資料館(岐阜県、平井家)・手銭家(島根県出雲市)

(2) 活動記録

[研究会]

◎第1回共同研究会 平成24年6月8日(金) 国文学研究資料館オリエンテーション室

「矢口」チーム

- 1 紅林健志「矢口家の写本」
- 2 金田房子「矢口一之の俳諧活動と矢口家蔵書」

「八戸」チーム

- 3 久保田啓一「八戸南部家の歌書について－南部智信・近藤利亮を中心に－」
- 4 伊藤善隆「畔李の俳諧活動と南部家旧蔵書」

◎第2回共同研究会 平成24年12月23日(日) 国文学研究資料館オリエンテーション室

「祐徳」チーム

- 1 入口敦志「鹿島鍋島藩の漢籍一端－大名家蔵書形成の核としての漢籍－」
- 2 菱岡憲司「鹿島藩の蔵書目録」

「手銭」チーム

- 3 山崎真克「江戸後期出雲歌壇を構成する歌人データベースの構築とその活用について」
- 4 原 豊二「山陰地方の三十六歌仙絵」

[資料調査]

八戸市立図書館(5/15～17、8/1～4)、矢口丹波記念文庫(6/1～2、9/6～8)、蘆庵文庫(8/27～29、3/12～15)、三島市郷土資料館(8/28～31、2/19～21)、手銭記念館(9/16～17 16日は研究会)、富加町郷土資料館(3/10～12)、以上各チーム。

金田房子 8/9～10 高崎市立図書館(矢口関連調査)

[展示・シンポジウム]

◎平成24年度調査研究シンポジウム「近世における蔵書形成と文芸享受－文学研究の視点から－」

期日：平成24年6月7日（木）、会場：国文学研究資料館大会議室、参加人数概数：70名

加藤弓枝「非蔵人の文学的営為－身分的境界層の果たした役割－」

川平敏文「肥前鹿島藩主鍋島家の神道書とその周辺」

田中則雄「手銭家蔵書と出雲の文芸活動」

◎俳文学会東京例会主催「大名と俳諧」（井上敏幸「大名家の点取俳諧」他）に国文研共催として参加

期日：平成24年12月22日（土）、会場：青山学院大学

[研究成果]

金田房子「矢口一多年譜－上毛八幡矢口家蔵書から－」、『国文学研究資料館紀要 文学研究篇』第39号、pp.53-75、25年3月、無

「シンポジウム報告」、「調査研究報告」第33号、pp.1-39、無

大高洋司「平成二十四年度調査研究シンポジウムの概要」、pp.1-2

加藤弓枝「非蔵人の文学的営為－身分的境界層の果たした役割－」、pp.3-13

川平敏文「肥前鹿島藩主鍋島家の神道書とその周辺－新出『神道伝授秘函』を中心に－」、pp.15-26

田中則雄「手銭家蔵書と出雲の文芸活動」、pp.27-39

【日本古典文学における〈中央〉と〈地方〉】

プロジェクト代表者：寺島恒世

プロジェクト参加者：落合博志、小林健二、海野圭介、齋藤真麻理、浅田徹（お茶の水女子大学教授）、石澤一志（目白大学専任講師）、岩城賢太郎（武蔵野大学専任講師）、神楽岡幼子（愛媛大学教授）、久保木秀夫（鶴見大学准教授）、小助川元太（愛媛大学准教授）、小林一彦（京都産業大学教授）、佐々木孝浩（慶應義塾大学文学部教授）、鈴木 元（熊本県立大学教授）、妹尾好信（広島大学教授）、高橋秀城（成田山仏教研究所研究助手）、高橋悠介（神奈川県立金沢文庫学芸員）、徳岡 涼（熊本大学文学部附属永青文庫研究センター客員准教授）、中野貴文（熊本大学准教授）、野本瑠美（島根大学専任講師）、福田安典（日本女子大学教授）、三村晃功（京都光華女子大学名誉教授）

(1) 概 要

来年度から始まる基幹研究の準備研究として、計画案の検討を行い、実施にあたっての具体的な方法等を策定した。準備のための研究会を開催し、計画案を決定した上で、実施内容の検討、研究分担の決定等を行った。それを受け、各担当ごとに本研究に向けた準備を進めた。

(2) 活動記録

[研究会]

◎第1回研究会

平成24年8月18日（土） 国文学研究資料館第1会議室

1 計画原案の紹介・説明、及びその検討・審議

2 計画の決定、及びチーム共同研究の打ち合わせ・個別事例研究の調整

[資料調査]

個別研究については担当者ごとに準備を進めた。

チーム共同研究においては、以下の箇所につき、調査と収集を行った。

小林健二 11/25～28 宇和島伊達文化保存会（資料調査）

中村健太郎 11/25～27 宇和島市立伊達文化保存会（資料調査）

小林健二、岩城賢太郎 2/20～22 宇和島伊達文化保存会（資料調査・収集）

【民間アーカイブズの保存活用システム構築に関する基礎研究】

プロジェクト代表者：大友一雄

プロジェクト参加者：青木 睦、太田尚宏、西村慎太郎、加藤聖文、久留島浩（国立歴史民俗博物館教授）、浅倉有子（上越教育大学教授）、三宅正浩（福島大学准教授）、岩淵令治（国立歴史民俗博物館准教授）、早川和宏（大宮法科大学院大学准教授）、平井義人（大分県立先哲史料館館長）、太田富康（埼玉県立文書館部長）、白井哲哉（筑波大学准教授）、西向宏介（広島県立文書館副主任研究員）、降幡浩樹（松代文化施設等管理事務所学芸員）

（1）概 要

本研究は、準備研究として、関連研究の把握・課題設定、研究範囲、役割分担等について、具体的な事例研究などを通じて検討し、研究課題を共有することを狙いとする。

この準備研究では、民間アーカイブズ論の構築および保存管理の実践モデル設定に関わる共同調査（長野県松代地域など）に関連する2回の研究会を開催した。また、多様な存在形態を示す民間アーカイブズを比較検討するため、その他の地域でも適宜調査を実施した。

（2）活動記録

[研究会]

◎第1回研究会（民間アーカイブズ論関係研究会）

平成24年12月8日（土） 国文学研究資料館第2会議室

1 研究の目的・研究活動の概要について（大友一雄）

2 「民間アーカイブズの現状と課題」に関する小報告と質疑

渡辺浩一「地域住民が参加する被災史料保存への取り組み」

山田哲好「『民間アーカイブズ所在情報データベース』再構築の意義と課題」

青木 睦「民間アーカイブズの保存に関する現状と課題」

太田尚宏「民間史料保存利用機関の脆弱性」

加藤聖文「公共記録としての民間文書」

工藤航平「北海道開拓移住武士集団関係史料の存在と意義」

新井浩文「最近10年間における保存・管理状況の変化」

白井哲哉「地方における文書管理の歴史的背景」

長谷川伸「史料所在確認調査推進の必要性」

平井義人「保存の担い手としての民間歴史サークル」

小川正人「アイヌ民族文化研究センターの取り組み」

菅野直樹「防衛研究所所蔵の民間文書について」

早川和宏「民間アーカイブズの保存に関わる法的問題」

3 今後の研究計画について（小報告からあがった論点の整理と研究課題の共有化）

◎第2回研究会（松代共同調査関係研究会） ※科研との共同研究会

平成24年12月15日（土）・16日（日） 国文学研究資料館閲覧室・第2会議室

1 館 蔵「信濃国松代真田家文書」の調査

2 佐藤宏之「真田幸教の著作活動について」

3 大友一雄「天保期における老中職公用方役人と情報管理」

[資料調査]

信濃国松代真田家文書との比較対象として、尾張徳川家文書（愛知県名古屋市）および津軽家文書（青森県弘前市）を選定して調査を実施し、史料群の特質の把握に努めた。

[文献調査]

共同調査の候補地の一つである東京都多摩地域に関する基礎的研究文献の収蔵状況確認調査を実施し、研究基盤の整備に努めた。

2. 特定研究

【在米絵入り本の総合研究】

プロジェクト代表者：小林健二

プロジェクト参加者：大友一雄、寺島恒世、齋藤真麻理、江戸英雄、恋田知子、黒田智（国文学研究資料館客員准教授・金沢大学准教授）、石川 透（慶應義塾大学教授）、ロバート・キャンベル（東京大学教授）、ケラー・キンブロー（コロラド大学准教授）、小峯和明（立教大学教授）、ハルオ・シラネ（コロンビア大学教授）、ロベルタ・ストリップリ（ニューヨーク州立大学准教授）、高岸 輝（東京大学准教授）、武井協三（国文学研究資料館名誉教授）、徳田和夫（学習院女子大学教授）、福原敏男（武蔵大学教授）、藤原重雄（東京大学史料編纂所助教）、渡辺雅子（メトロポリタン美術館主任研究員）

(1) 概 要

本年度は研究会を2回開催し、4人の共同研究員がこれまでの調査成果の個別報告を行った。資料調査では、恋田研究員が科研費による調査員とともにニューヨークを中心としてアメリカ東部地区の絵入り本資料調査を行った。また、平成23年度にニューヨークのコロンビア大学で行った国際シンポジウムの成果を日本語版と英語版の二種類の刊行物にまとめて出版した。

(2) 活動記録

[研究会]

・第1回研究会

平成24年5月20日（日） 国文学研究資料館第1会議室

- 1 鈴木 淳「『黒本尊縁起絵巻』についての考察」
- 2 和田琢磨「楠妣庵観音寺蔵『楠公一代絵巻』について」
- 3 共同討議

・第2回研究会

平成25年1月6日（日） 国文学研究資料館第1会議室

- 1 恋田知子「経典と絵巻—『因果業鏡図』をめぐって」
- 2 藤原重雄「日吉山王靈験記絵巻の復元」
- 3 合同討議

[資料調査]

恋田知子 3/11～18 ボストン美術館・ニューヨーク公共図書館（物語絵関連調査）

[研究成果]

『アメリカに渡った物語絵—絵巻・屏風・絵本』平成25年3月、ペリかん社、258頁

『Japanese Visual Culture— Performance, Media, and Text』平成25年3月、国文学研究資料館、196頁

【近世的表現様式と知の越境—文学・芸能・絵画による総合研究—】

プロジェクト代表者：山下則子

プロジェクト参加者：神作研一、丹羽みさと、武藤純子（国文学研究資料館客員教授・清泉女子大学非常勤講師）、浅野秀剛（大和文華館館長）、井田太郎（近畿大学准教授）、伊藤善隆（湘北短期大学准教授）、岩切友里子（国際浮世絵学会編集委員）、加藤定彦（立教大学名誉教授）、倉橋正恵（立命館大学アトリサーチセンター客員研究員）、佐藤恵里（高知県立大学教授）、武井協三（国文学研究資料館名誉教授）、崔京国（明知大学校教授）、延広真治（東京大学名誉教授）、原道生（明治大学名誉教授）、光延真哉（白百合女子大学准教授）、安原真琴（立教大学兼任講師）、山本和明（相愛大学教授）、吉丸雄哉（三重大学准教授）

(1) 概 要

今年度は、共同研究会を1回開催し、主に展示解説に関する最終確認及び研究を行った。10月17日～11月20日に研究展示「江戸の「表現」—浮世絵・文学・芸能」、11月3日にシンポジウムを開催した。そのための展示・シンポジウム準備連絡会議を行った。

(2) 活動記録

[研究会]

◎共同研究会

平成24年5月12日（土） 国文学研究資料館第1会議室

1 山本和明「『やつし』と縮景—近江八景の美人画」

「尽くしものと「揃え」—絵本花ぞろえ・絵本勇武揃」

2 光延真哉「知の交流—鈍通禅学咄・俳諧通言・松緑高砂話・恋女房轡討双六・吹寄草子」

3 伊藤善隆「『評判』の様式—焦風俳諧名家競・見立俳家競・執心蔵見立評判記」

「知の交流—東海道中俳諧双六・春興手遊双六」

4 山下則子「歌仙絵の展開—中納言家持 春の野に～・中納言兼輔 みじか夜の～」

◎展示・シンポジウム準備連絡会議

平成24年 5月24日（木） 参加者：佐藤崇・三浦友加・山下則子

平成24年 6月 7日（木） 参加者：佐藤崇・三浦友加・山下則子

平成24年 6月25日（月） 参加者：丹羽みさと・屋代純子・山下則子

平成24年 7月13日（金） 参加者：浅野秀剛・神作研一・山下則子

平成24年 7月18日（水） 参加者：脇田美幸（株式会社オーバル）・三浦友加・山下則子

平成24年 7月31日（火） 参加者：撮影業者・三浦友加・山下則子

平成24年 8月 2日（木） 参加者：脇田美幸（株式会社オーバル）・三浦友加・山下則子

平成24年 8月 6日（月） 参加者：武藤純子・丹羽みさと・屋代純子・武井協三・山下則子

平成24年 8月13日（月） 参加者：脇田美幸（株式会社オーバル）・山下則子

平成24年 8月23日（木） 参加者：脇田美幸（株式会社オーバル）・三浦友加・山下則子

平成24年 8月28日（火） 参加者：設営業者・青木睦・三浦友加・山下則子

平成24年 9月10日（月） 参加者：武藤純子・丹羽みさと・屋代純子・山下則子

平成24年10月 1日（月） 参加者：丹羽みさと・屋代純子・武井協三・山下則子

平成24年10月 2日（火） 参加者：中村健太郎・神作研一・山下則子

平成24年10月10日（水） 参加者：青木睦・神作研一・山下則子

平成24年10月16日（火） 参加者：丹羽みさと・屋代純子・山下則子

平成24年11月 3日（土） 参加者：浅野秀剛・伊藤善隆・佐藤恵里・武井協三・原道生・山下則子

[展示・シンポジウム]

◎研究展示「江戸の「表現」—浮世絵・文学・芸能—」

会期：平成24年10月17日（水）～11月20日（火）、会場：国文学研究資料館展示室、入場者概数
2,064人 入場無料

◎シンポジウム「江戸の「表現」—浮世絵・文学・芸能—」

期日：平成24年11月3日（土）、会場：国文学研究資料館大会議室、参加人数概数：90人、

伊藤善隆「多色摺の源流—中国詩箋と林羅山」

佐藤恵里「風流の表現—近世名古屋の事例を中心に—」

浅野秀剛「役者見立絵—発生から定着まで—」

原 道生「近世芸能の表現—身体表現としての「芸」

[研究成果]

展示リーフレット『江戸の「表現」—浮世絵・文学・芸能—』（平成24年10月、国文学研究資料館、全69頁）。なお研究成果報告書は平成25年度に刊行予定である。

[その他]

山下則子「「見立」ることばの力—絵本と歌舞伎—」、日本文学国際共同研究集会研究発表

平成24年9月22日、於フィレンツェ Grand Hotel Baglioni 会議室

【藤原道長の総合的研究—王朝文化の展開を見据えて—】

プロジェクト代表者：大津 透（東京大学教授）

プロジェクト参加者：中村康夫、池田尚隆（山梨大学教授）、磐下 徹（関東学園大学講師）、大隅清陽（山梨大学教授）、倉本一宏（国際日本文化研究センター教授）、佐藤信一（白百合女子大学教授）、武井紀子（国立歴史民俗博物館外来研究員）、中島和歌子（北海道教育大学教授）、藤本勝義（青山学院女子短期大学教授）、松野 彩（成蹊大学非常勤講師）、松岡智之（お茶の水女子大学准教授）、福長 進（神戸大学教授）、吉田幹生（成蹊大学准教授）

(1) 概 要

3回の研究会を開催し、研究発表及び道長事典の具体的形成方法について討議を行った。

道長事典は『御堂関白記全注釈』の成果を踏まえることになっているが、全注釈の項目は必ずしも事典の項目と合致せず、大きい調整が必要であることが分かっている。また、項目数も全体として縮約する方向であることが考えられているので、それぞれについて、具体的に検討を進めている。

(2) 活動記録

[研究会]

◎第1回研究会

平成24年7月14日（土） 国文学研究資料館第2会議室

1 妹尾好信「御堂関白集について」

2 道長辞典等の打ち合わせ

◎第2回研究会

平成24年8月27日（月） 国文学研究資料館第4会議室

- 1 道長辞典の打ち合わせ（歴史班代表者磐下徹氏による報告）
- 2 道長辞典の打ち合わせ（文学班代表者松岡智之氏による報告）

◎第3回研究会

平成24年11月18日（日） 金沢文庫

- 1 道長事典の打ち合わせ（事典項目の内容確認、項目ごとの担当者の決定）
- 2 報告：磐下徹（史班）、松岡智之（文学班）

◎第4回研究会

平成25年1月12日（土） 国文学研究資料館第1会議室

- 1 大津透「藤原道長の歴史的意義」
- 2 道長辞典等の打ち合わせ

平成25年1月13日（日） 金沢文庫

- 1 道長辞典の打ち合わせ（歴史班代表者磐下徹氏による報告）
- 2 道長辞典の打ち合わせ（文学班代表者松岡智之氏による報告）

◎第5回研究会

平成25年3月19日（火） 国文学研究資料館第2会議室

- 1 道長辞典の打ち合わせ（歴史班代表者磐下徹氏による報告）
- 2 道長辞典の打ち合わせ（文学班代表者松岡智之氏による報告）

◎第6回研究会

平成25年3月23日（土） 国文学研究資料館第2会議室

- 1 丸山裕美子「平安貴族の病と医療—『道長事典』のために—」
- 2 道長辞典等の打ち合わせ

【大福光寺本「方丈記」を中心とした鴨長明作品の文献学的研究】

プロジェクト代表者：浅見和彦（成蹊大学教授）

プロジェクト参加者：小林健二、寺島恒世、海野圭介、浅田 徹（お茶の水女子大学教授）、荒木浩（国際日本文化研究センター教授）、磯 水絵（二松学舎大学教授）、木下華子（ノートルダム清心女子大学講師）、小林一彦（京都産業大学教授）、今野真二（清泉女子大学教授）、新聞水緒（花園大学教授）、田中宗博（大阪府立大学教授）、辻 勝美（日本大学教授）、野本瑠美（島根大学講師）

(1) 概 要

本年度は共同研究の成果を踏まえて国文学研究資料館で特別展示「鴨長明とその時代『方丈記』800年記念」を開催し、研究成果を盛り込んだ図録を刊行した。また、2回の研究会を実施し、5人の研究員がそれぞれ鴨長明の作品を対象とした報告を行った。

(2) 活動記録

[研究会]

◎第1回研究会

平成24年5月25日（金） 国文学研究資料館第2会議室

- 1 浅見和彦「先賢図押し絵貼屏風について」
- 2 磯 水絵「鴨長明と音楽説話」

3 小林健二「法界寺蔵の鴨長明木像」

4 共同討議

◎第2回研究会

平成25年2月9日(土) 京都産業大学むすびわざ館

1 浅田 徹「漢字交じりカタカナ文の生成」

2 海野圭介「二つの方丈記—方丈記古写本の表記と装幀をめぐって」

3 共同討議

[資料調査]

小林一彦 5/25～27 国文学研究資料館(「方丈記」「鴨長明集」関連)

荒木 浩 5/25～27 国文学研究資料館(「発心集」「方丈記」関連)

田中宗博 5/25～27 国文学研究資料館(「発心集」関連)

木下華子 5/25～27 国文学研究資料館(「無名抄」関連)

野本瑠美 5/25～27 国文学研究資料館(「方丈記」「鴨長明集」関連)

海野圭介 8/23～25 大阪府立図書館・京都国立博物館(「方丈記」「鴨長明集」関連)

大野順子 8/29～31 龍谷大学図書館・京都大学附属図書館(「鴨長明集」関連)

浅見和彦 10/1 下鴨神社(「方丈記」関連)

神田邦彦 12/8～10 天理大学附属図書館・相愛大学図書館(「方丈記」関連)

大野順子 2/13～15 ノートルダム清心女子大学図書館(「鴨長明集」関連)

[展示・シンポジウム]

◎特別展示「鴨長明とその時代『方丈記』800年記念」

会期：平成24年5月25日(金)～6月23日(土)、会場：国文学研究資料館展示室、入場者概数1,806人 入場無料

[研究成果]

展示図録『鴨長明とその時代『方丈記』800年記念』(平成24年5月、国文学研究資料館、全130頁)

【日本における宋版の伝来と受容についての研究】

プロジェクト代表者：牧野和夫(実践女子大学教授)

プロジェクト参加者：陳捷、入口敦志、尾崎康(元慶應義塾大学附属研究所斯道文庫教授)、椎名宏雄(龍泉院住職)、陳先行(上海圖書館歴史文献センター副主任)、長澤孝三(元帝京大学教授)、中村一紀(宮内庁書陵部編修課実録編修室内閣府事務官)、野沢佳美(立正大学教授)、芳村弘道(立命館大学教授)

(1) 概 要

第1回、第2回の研究会では、研究会のメンバーが共同研究のテーマに沿った発表を行った。

第1回目は立正大学で、第2回目は立命館大学で開催した。両校はともに研究会メンバーの勤務校であり、また、宋版とその関連資料を所蔵している。そのため、研究会とあわせて、資料の共同閲覧を行い、原本を見ながらの討議ができ、大変有意義なものとなった。いづれの研究会もメンバー以外の参加を得て、活発な討議を行った。以上の点は、今後の研究会の開催にもできる限り考慮したい。また、下記に記したとおり、メンバーは関連資料の調査を行うと共に、積極的に成果を発表している。

(2) 活動記録

[研究会]

◎第1回研究会

平成24年12月25日（金） 立正大学大崎校舎

- 1 牧野和夫「宋版一切経の二つの問題―入れ木（埋木）と刊・印、思溪版の版式―」
- 2 芳村弘道「『乾隆四庫全書無板本』に見える鮑廷博の『江湖集』校宋本識語について」
- 3 共同討議
- 4 宋版関係資料の共同閲覧
- 5 今後の活動についての打合せ

◎第2回研究会

平成25年3月2日（土） 立命館大学

- 1 陳先行「宋版と版本目録」
- 2 共同討議
- 3 今後の活動についての打合せ

平成25年3月3日（日） 立命館大学

- 1 宋版関係資料の共同閲覧

〔資料調査〕

芳村弘道 8/2～4 国立公文書館・日本大学商学部（宋版関連調査）

芳村弘道 2/20～22 国立公文書館・東京国立博物館（宋版関連調査）

〔研究成果〕

牧野和夫「中世寺院資料をめぐる二、三の問題―伝領墨署名慶春・泉涌寺版『四分律含注戒本疏行宗記』の底本―」『実践国文学』82号、2012年10月、pp17-25、査読無

芳村弘道「Translation and Notes : Dong Kang's 董康 "Shu Bo Yong Tan 書舶庸譚" of Nine-volume Book (5)」『立命館白川静記念東洋文化研究所紀要』6号、2012年7月、pp53-64、査読無

長澤孝三『幕府のふみくら―内閣文庫のはなし』吉川弘文館、2012年9月、全278頁

陳捷「日本入宋僧南浦紹明および宋僧の詩集『一帆風』について」、堀川貴司・浅見洋二編『蒼海に交わされる詩文』、pp.119-146、汲古書院、2012.10

陳捷『夢梅華館日記』翻刻（第二十三～二十五巻）、『調査研究報告』（国文学研究資料館）第33号、pp.171-218、2013.3

入口敦志「ルポルタージュとしての仮名草子―時事性と出版―」『HUMAN』3号、2012年12月、pp62-68、査読無

入口敦志「権力と出版―『帝鑑図説』から見えてくること―」『国文研ニュース』30号、2013年1月、査読無

【語り物文芸の絵画化と享受環境に関する基礎的研究―〈曾我物語〉を題材とする絵入本・絵巻・屏風の考察を中心にして】

プロジェクト代表者：宮腰直人（国文学研究資料館客員研究員）

プロジェクト参加者：市川廣太（武蔵大学大学院修士課程修了生）、伊藤慎吾（國學院大學非常勤講師）、植松有希（長崎歴史文化博物館研究員）、斉藤研一（武蔵大学非常勤講師）、鈴木 彰（明治大学准教授）、出口久徳（立教新座中学校・高等学校）、目黒将史（立教大学兼任講師）

(1) 概 要

本年度は、8名の共同研究員が曾我物語の絵画資料ならびに、鹿児島・島津家と熊本・細川家に関わる曾我物語関連資料を中心に調査を行った。調査成果については、合計3回の研究会を開催し、共同

討議を行い、資料情報の共有と今後の課題を検討した。また、代表者の宮腰が成果の一部として、論文を公表した。

(2) 活動記録

[研究会]

◎第1回研究会

平成24年5月12日(土) 国文学研究資料館第2会議室

- 1 宮腰直人「曾我物語の絵入本化をめぐって—九州大学蔵本を中心にして」
- 2 共同閲覧 絵入古活字『曾我物語』
- 3 出口久徳「絵入古活字『曾我物語』」の特徴と問題点
- 4 共同討議

◎第2回研究会

平成24年10月27日(土) 立教大学5号館5207教室

- 1 市川廣太「東京芸術大学蔵「曾我物語絵巻模本」調査報告と今後の課題」
- 2 斉藤研一「下野狩りに『曾我物語』を見る」

◎第3回研究会

平成25年3月2日(土) 国文学研究資料館第1会議室

- 1 宮腰直人「『曾我物語』の絵画化と享受環境・私考—九大本・島津家本・絵入古活字本の比較を起点にして」
- 2 鈴木 彰「門之浦伝来絵巻」と十六・十七世紀南薩の祭礼・祭祀——富士巻狩図の地域的再生——」
- 3 共同討議

[資料調査]

宮腰直人、斉藤研一、出口久徳 6/19～20 熊本大学附属図書館・熊本県立美術館(曾我物語写本及び下野狩図屏風の調査)

宮腰直人、鈴木彰、目黒将史 8/27～29 鹿児島大学附属図書館・鹿児島県立図書館(島津家関連資料の調査)

宮腰直人、市川廣太、植松有希、斉藤研一 2/20～22 熊本県立図書館・熊本県立美術館(細川家と曾我物語関連の資料調査)

宮腰直人 2/13 九州大学附属図書館(奈良絵本曾我物語の調査)

宮腰直人 3/5～7 松浦史料博物館・長崎歴史文化博物館(曾我物語写本および関連文献の調査)

宮腰直人 3/9～11 鹿児島県立図書館・鹿児島大学附属図書館(島津家関連資料の調査)

宮腰直人、市川廣太、目黒将史 3/20 箱根町立郷土資料館(曾我物語絵巻の調査・撮影)

[研究成果]

宮腰直人「弁慶の地獄破り譚考：島津義久と語り物文芸の関わりから」(隔月刊「文学」13巻5号、平成24年9月) p.72-86 査読無

宮腰直人「和田酒盛譚考」(「国文学研究資料館紀要」文学篇39号、平成25年3月) p.97-118 査読無

[その他]

出口久徳「源平合戦図屏風の世界」(「文化現象としての源平盛衰記」研究) 主催講演会講師 平成24年4月28日 於國學院大學)

宮腰直人「敦盛・直実譚と語り物文芸の絵画化—幸若舞・古浄瑠璃・説経をめぐって」(「文化現象としての源平盛衰記」研究) 主催公開シンポジウム講師 平成24年7月21日 於國學院大學)

3. 国際連携研究

【オランダ国ライデンを中心とするシーボルト関係日本書籍資料の調査研究】

プロジェクト代表者：鈴木 淳

プロジェクト参加者：古瀬 蔵、陳捷、青山英正（明星大学准教授）、浅野秀剛（大和文華館館長）、石川 了（大妻女子大学教授）、大石房子（清泉女子大学非常勤講師）、川平敏文（九州大学准教授）、ダーン・コック（ライデン大学非常勤講師）、鈴木俊幸（中央大学教授）、イヴォ・スミッツ（ライデン大学教授）、高倉一紀（皇學館大学教授）、マティ・フォラー（ライデン国立民族学博物館学芸員）、ウィリアム・ボート（ライデン大学教授）

(1) 概 要

シーボルト等が蒐集した日本書籍に関する海外調査を2回実施した。調査で得られた書誌的データを、前年度までに集積した書誌的データと統合した。集積した書誌的データの整理補訂も実施した。研究会を国内において2回実施した。1回目の研究会ではオランダの研究者を招聘した。

(2) 活動記録

[研究会]

◎第1回研究会

平成24年6月15日（金） 国文学研究資料館第2会議室

- 1 鈴木 淳「付箋、蔵書票、スタンプーシーボルト蒐集書籍の書誌的特記事項ー」
- 2 マティ・フォラー「書袋と絵」

◎第2回研究会

平成25年1月24日（木） 国文学研究資料館第1会議室

- 1 陳捷「ライデン伝来シーボルト旧蔵和刻本漢籍」

[資料調査]

鈴木淳、神作研一、陳捷、大石房子、牧野悟資、神林尚子 9/16～23

ライデン大学図書館（シーボルト等が蒐集した日本書籍に関する調査）

鈴木淳、青山英正、クリストフ・マルケ、牧野悟資 3/10～18（鈴木3/10～3/20）

フランス国立図書館・ライデン大学図書館・大英図書館（シーボルト等が蒐集した日本書籍に関する調査）

マティ・フォラー 6/9～17 国文研・三康図書館・国会図書館・東洋文庫・都立中央図書館（資料調査）

鈴木淳、大石房子、牧野悟資 2/5～7 長崎歴史文化博物館・シーボルト記念館・諏訪文庫（資料調査）

[研究成果]

ニュース・レター「立川通信」第1号を発信した。

[その他]

『フリーア美術館ゲルハルト・ブルヴェラー日本絵本コレクション目録稿』（調査研究報告第33号別冊）を増刷した。

【日本文学のカタチ】

プロジェクト代表者：伊藤鉄也

プロジェクト参加者：大高洋司、小林健二、谷川恵一、山下則子、神作研一

(1) 概 要

2012年12月と2013年1月の打ち合わせ会で、(1) 描かれた神仏の物語、(2) 男たちの性愛、(3) 日本文学はどう訳されたか、の3つのテーマが確定した。実施時期は、2013年12月を予定している。

これを受けて、2013年1月来館のコロンビア大学ハルオ・シラネ教授と具体的な検討に入り、2月にアメリカ側の発表者をシラネ教授とすることになった。

また、中国に関しては、2月に北京日本学研究中心を訪問する計画をたてた。しかし、中国の環境が急変したため、訪問は延期することになった。フランス及び韓国の参加については、現在交渉中ないしは確認中である。

(2) 活動記録

[研究成果]

各年度におけるシンポジウムのテーマと担当者か確定し、実施時期も見通しが得られた。

さらに、アメリカからの参加に関して、具体的に交渉ができ、人選もほぼ確定した。

[その他]

中国への説明と交渉は、2013年夏までに実施する予定である。

1. 調査収集事業部

【全体の概要】

調査収集事業部では、全国の研究者・研究機関等との緊密な協力のもとに、資料の特性を踏まえた調査と、それに基づく計画的な収集を実施した。具体的には、全国の所蔵機関に存在する日本文学原典及びその関連資料の調査と、撮影（マイクロフィルムまたはデジタル撮影）による収集、及びアーカイブズ調査収集である。調査については、ほぼ年度当初に予定していたとりの成果を挙げることができた。収集については、年度予定の約6割の成果である。

「リプリント日本近代文学」第6期40点を刊行した。

なお、収集マイクロフィルムデジタル化事業については、引き続き、原本の所蔵者からの許諾取得等作業を分担し、宮内庁書陵部を含め、着実に公開機関を増加させることができた。

【全国の所蔵機関に存在する日本文学原典及びそれに関連する資料の調査・収集】

(1) 日本文学原典及びその関連資料の調査・収集

平成24年度においては、約6,800点の調査、1,700点の収集を行った。中心となる地域別調査・広域調査（93ヶ所）のほか、先方機関と連携して行う連携調査（計2ヶ所）を行った。

(2) 日本古典籍資料調査データベース

平成23年度に調査したカードを中心に、画像データ約6,000件、書誌データ約7,100件の入力を行った。現在約169,000件が利用に供されている。毎年度蓄積する新規カードのデジタル化は、今後も継続する予定である。

(3) 調査収集の成果としての刊行物

『調査研究報告』第33号を刊行した。

また、オンデマンド出版による、開化期戯作など明治文学の復刻である「リプリント日本近代文学」第6期40点を刊行した。

(4) 調査収集の成果の共有と還元のための取り組み

調査収集の成果は、これまでもマイクロフィルム公開等の形で国文学研究に寄与してきたが、それを更に推進するための取り組みとして、平成18年度、調査員を共同研究者とする基幹研究を開始した。「近世における蔵書形成と文芸享受」（研究期間：平成23年度～25年度）においては、昨年度調査員会議におけるシンポジウム（平成24年6月7日、於・国文研）、共同研究会（平成24年6月8日、於・国文研、平成24年12月22日、於・青山学院大学、平成24年12月23日、於・国文研）を開催し、資料調査等の活動を展開した。また、平成25年度から開始する「日本古典文学における〈中央〉と〈地方〉」（平成25年度～27年度）においては、準備研究として、共同研究会（平成24年8月18日、於・国文研）を開催し、調査活動の打ち合わせ等を行った。

(5) 収集マイクロフィルムのデジタル化

収集マイクロフィルムのデジタル公開を行うために原本所蔵者の許諾を得、所蔵マイクロ資料のデジタル化を進めた。平成24年度末現在、累計で18所蔵者、約2万5千点の画像を作成した。

【アーカイブズ調査・収集】

(1) 目録による史料群所在情報の調査

全国の史料保存利用機関の史料群情報、目録情報・刊行状況の調査及び収集を行い、目録類を収集した。

(2) 史料の存在形態調査

史料存在形態情報の記述・整理、簡易的保存措置、目録作成・データベース作成、保存と利用のための基盤整備として、信濃国埴科郡松代伊勢町八田家文書目録（その5）・（その6）を収録する『史料目録』第96・97集の2冊を刊行した。

(3) 所蔵史料に関連する史料の調査及び収集資料

韮山市江川文庫の調査とデジタル収集（74点）、及び長野市立博物館（八田家文書）のデジタル収集（40点）を実施した。また、弘前市立図書館所蔵のマイクロフィルムの複製（156リール）を行った。

2. 電子情報事業部

【総括】

電子情報事業部は、情報システムの有効・適切な運用を図り、研究・調査及び事業の成果を、研究者、大学院生、社会一般に、インターネットを通じて提供している。さらに、国内外の関連研究機関等との連携を進めている。

第8期情報システムは、平成23年2月1日に第7期情報システムからリプレースして以来順調に稼働している。

管理運用面では、概ね24時間安定した稼働を保持し、情報システム、情報資源共に順調に経過した。

データベース公開事業では、平成25年3月末現在31タイトルのデータベースを公開している。搭載データについては、適宜追加、更新などの作業を行い、高信頼度のサービスの維持に努めている。

一方、データベースと関連システムの保存、保守、更新など日々の運用管理業務は、学術情報課学術情報係と同システム管理係が担当している。また、データベース利用に関わる評価のための利用統計等のデータ収集と分析を行い、データベース利用環境の向上に努めている。

デジタル画像の公開に関しては、館蔵和古書画像の画像公開を進めるとともに、収集マイクロ資料画像として宮内庁書陵部所蔵3,686点、弘前市立図書館1,834点、酒田市立光丘文庫1,394点、善通寺921点、矢口丹波記念文庫664点および函館市立中央図書館所蔵528点の公開を開始した。

電子情報事業部の平成24年度計画は順調に推移し、概ね目標を達成した。

【電子情報事業部の運営】

(1) 組織体制と運営

電子情報事業部長を置き、同副部長他、8名の教員の体制により事業を運営し、学術情報係、システム管理係が事務を担当した。

概ね隔月毎に電子情報事業部会を開き、事業全体の進捗度の把握と評価を行った。また、電子情報事業に関わる種々の事項について審議、立案等を行った。

(2) 情報システムの運用管理

情報システムは、LinuxサーバおよびWindowsサーバによる分散型サーバシステムと、それらを利用するためのクライアントPC、そしてそれらを接続する館内LAN（1Gbps）で構成され、主に館内の様々な情報処理、並びにインターネット経由による公開データベースサービス等に使用、ほぼ365日不断の安定稼働を行っている。情報システムに関する実績評価分析については、システム稼働状況（サーバ稼働率、ディスク使用率、ネットワーク・トラフィック）のデータ分析を行っている。また、情報システムに蓄積された日本文学とそれに関わるアーカイブズ研究資料情報等の資源監視、プロセス監視、ユーザ管理、バックアップの定期的な運用管理を行っている。

平成22年2月1日から引き続き、研究事業用システム端末（97台）及びプリンター（24台）の運用を行っている。特にセキュリティ、データ保守を重視し、システムソフトウェアのアップデートの一元管理、各PCデータの自動バックアップ等の仕組みを取り入れている。

平成20年2月1日から引き続き、事務情報システム端末（37台）及びプリンター（8台）の運用を行っている。データ保守を重視し、各PCのデータ領域をファイルサーバ上に構築する仕組みを取り入れている。なお両システムは、平成24年度1月末でリース契約期間を終える予定であったが、更新端末調達が平成25年度8月となったため、半年間のリース延長を行なった。

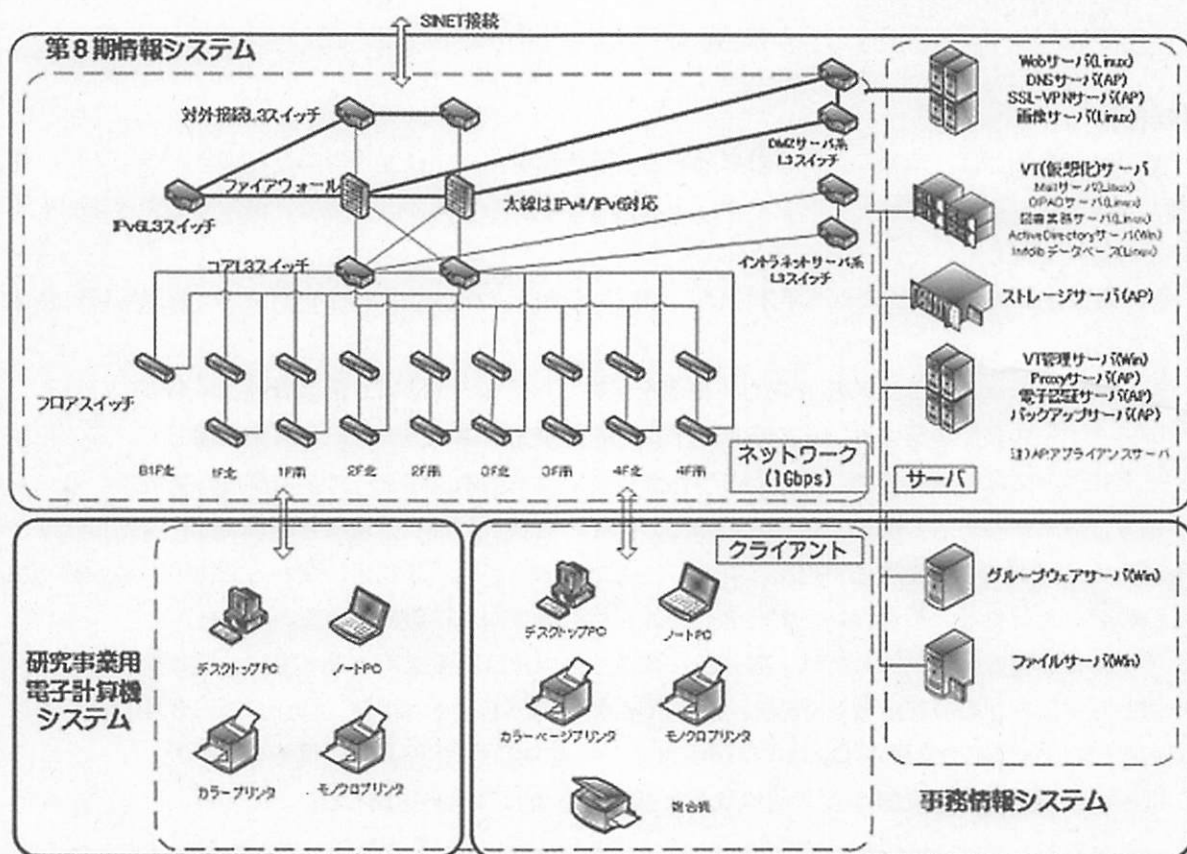


図1 第8期情報システム構成図（平成25年1月現在）

(3) ネットワークシステムの運用管理

研究、教育、業務におけるネットワークシステムについて、障害に強く、かつ安定的な稼働に努め、また電子メール等へのウイルス侵入に対する予防対策、緊急対応、システムの更新、パッチ等を可能な限り速やかに行い、対処し、高信頼性の運用を保持した。

第8期情報システムでは、第7期システムで整備した高いセキュリティ対策水準、厳重な接続機器の管理を維持しつつ、VT 技術によるサーバの仮想化やコンソールのリモート管理等、運用管理機能の一元化を推し進め、作業の効率化を図っている。

(4) 情報資源の運用管理

公開している31タイトルのデータベースについては、年間を通じて安定的な稼働を行った。

データベースによっては、適宜データの追加更新を行っている。また、これら情報資源の定期的なバックアップを行い、不測の事態に対しても十分な対応を行い、高信頼度の維持に努めた。

(5) 情報サービスの向上

各データベースの利用者サービスの向上に資するため、アクセス元情報等の利用統計分析及びウェブページのデザイン等の変更を適宜行った。また、各種公開サービスの表玄関となる当館のWebトップページサーバ及びDNSサーバへのIPv6アクセスを可能にし、従来のアクセス環境を維持しつつ、世界的なIPアドレス不足に端を発するインターネットインフラの仕様変化にも柔軟に対応できるよう変更を行なっている。

【個別事業の実績、評価】

(1) 情報システムの運用管理

情報システムの安定的運用管理及び情報資源のセキュリティ確保のため、以下の業務を行った。

①情報システムの運営

システムのオペレーション、バージョンアップ、パッチ作業等については、監視と操作作業は委託SEにより行い、システム管理係において分析評価を行った。平成24年度においては、情報システムのハードウェア、ソフトウェア、オペレーションに起因する重大なシステム障害、及びネットワーク障害、さらに外部からの干渉（クラッキング等）による重大なシステム障害は発生していない。（システムの停止作業は、法令点検に伴う全館停電のために1回発生した。）PC系、プリンタ系の障害等については、システム管理係及び業者の保守窓口が対応した。

②共同利用の推進

人間文化研究機構「研究資源共有化事業」に積極的にに関わり、その責務を果たしている。また、人間文化研究機構に属する他の機関、国立歴史民俗博物館、国立国語研究所、国際日本文化研究センター、総合地球環境学研究所、国立民族学博物館との安定的なシステム接続運用を行った。

③情報セキュリティの推進

平成21年4月1日に制定した情報セキュリティポリシーを継続して運用している。平成24年度は、ウィルス対策システムをトレンドマイクロ社のウィルスバスターコーポレートエディションからESET社のESET Endpoint security（ESET）に変更、同時に、複数の端末管理アプリケーションがインストールされていることによる端末リソース圧迫の軽減のため、従来からの端末管理システムであるQAWを廃し、端末のセキュリティ及び管理をESETに一本化した。

また、ESET管理サーバの登録データにSQLレベルで直接アクセスし、Webプロキシサーバと連動させて、ESETがインストールされていない端末の館外アクセスの遮断と、インストール後に自動でアクセス遮断を解除するシステムを独自に構築、セキュリティの更なる強化を図った。

(2) データベースの運用管理

データベースと関連システムの保存と運用管理を行っている。また、研究系や他事業部が作成するデータベースと関連システムは、緊密に連携・協力を行っている。

平成24年度システムの開発、変更及び大幅なコンテンツ追加を行ったデータベースを表1に掲げる

(データベースの概要は表2、利用状況は表3をそれぞれ参照)。

表1 平成24年度システムの開発、変更及び大幅なコンテンツ追加を行ったデータベース

データベース名	内容
国文学論文目録データベース (館内作業用)	データ管理作成システムの開発
所蔵和古書・マイクロ/デジタル目録データベース	詳細は【総括】に記載
大系本文 (日本古典文学・断本) データベース	日本古典文学本文データベースについては、平成24年2月に運用を停止し、機能向上した新システムとして、大系本文 (日本古典文学・断本) データベースを平成24年5月より公開した
古事類苑データベース	全文・抜粋検索版を、抜粋テキストの検索もできるよう再構築
統合古典籍総合目録データベース (館内用)	所蔵者・コレクション機能の追加
増田太次郎広告コレクションデータベース	新規公開
近世語彙カードデータベース	新規公開

なお、各データベースは、データベース管理簿を作成し、整理し、管理している。また、人間文化研究機構全体のデータベース台帳の作成に協力している。

表2 HP「電子資料館」から公開しているデータベース

図書・雑誌所蔵目録 (OPAC)	当館所蔵の明治期以降の図書、雑誌 (逐次刊行物) の目録データベース。図書約133,000件、雑誌約8,400タイトル。
国文学論文目録データベース	国文学関係論文 (大正元年～平成20年) の目録データベース。約499,000件。
日本古典籍総合目録データベース	日本の古典籍の書誌・所在についての情報を、著作・著者についての情報 (典拠情報) とともに提供する総合目録データベース。『国書総目録』所載の所在・翻刻複製情報 (写本、版本、活字・複製・謄写本) を併せて表示。書誌情報には、当館所蔵和古書とマイクロ/デジタル資料 (国内外の古典籍を撮影収集した資料) も含む。著作約465,000件、著者約68,800件、書誌約499,000件。
所蔵和古書・マイクロ/デジタル目録データベース	当館所蔵のマイクロ/デジタル資料 (国内外の大学・図書館等所蔵の古典籍を当館がマイクロ、デジタル撮影し、収集した資料) と和古書の目録データベース。検索結果から、古典資料調査データ及び原本、館蔵貴重書等へのデジタル画像へのリンクあり (一部)。マイクロ/デジタル資料約221,000件、和古書約16,000件。
日本古典資料調査データベース	当館が30年にわたり調査してきた国内外の大学・図書館・文庫等所蔵の写本・版本等の「文献資料調査カード」から主要な書誌情報を抽出したデータベース (調査カード画像も参照可能)。約168,800件。
近代書誌・近代画像データベース	平成10年度より開始した、明治期以降の国文学を中心とした文献資料の調査・収集の成果を公開。書誌約34,180件、画像約2,630件。
明治期出版広告データベース	近代日本の出版事情を探ることを目的として、明治前期の新聞・雑誌等に掲載された出版物の広告を集成したものです。約57,000件の広告を収めており、書名・書肆検索や広告本文の全文検索機能も備えている。
大系本文 (日本古典文学・断本) データベース	岩波書店刊行の旧版「日本古典文学大系」と東京堂出版刊行の「断本大系」の作品について、全文検索とテキスト閲覧ができます。大系本文 (日本古典文学) データベースは利用登録制。
古典選集本文データベース	二十一代集、絵入源氏物語、吾妻鏡、歴史物語。古典作品原本の全文検索が可能。当館蔵書底本とし、泣き別れ検索にも対応。歴史物語は、栄花物語、大鏡、今鏡、水鏡、増鏡により構成。
歴史人物画像 (古典キャラクター) データベース	国書古典籍中の絵入り叢伝から古典キャラクターの人物画像を集めてデータベース化したもの。おもに明治以前のものから挿絵の古典キャラクター画像 (約3100名・4700件) のみを切り出し、各人物がどのように描かれてきたかを比較対照できる。
連歌・演能・雅楽データベース	寄託データベースである連歌データベースと演能データベースを連結し、新規作成の雅楽データベースを添えてセットにしたデータベース。
コーニツキー・欧州所在日本古書総合目録データベース	欧州各国の図書館・美術館・博物館等所蔵の「日本の和装本」の書誌・所在情報データベース (ケンブリッジ大学のピーター・コーニツキー教授が収集・整理されたデータを順次追加・更新)。13,656件。一部原本画像の公開あり。

新奈良絵本画像データベース	
当館所蔵の奈良絵本（19本）の原本画像データベース（翻刻付）。	
史料情報共有化データベース	
国内外で公開されている資料群（アーカイブズ）情報のデータベース（歴史資料を公開する各収蔵機関による共同構築）。	
古事類苑データベース	
『古事類苑』大正版洋装本のデータベース。テキスト版では、『天部』など4部（8部に拡大予定）のテキストが閲覧可能。全文検索版では、『天部』など4部の全文テキスト、『神祇部』など22部の抜粋テキストに対して、キーワード検索が可能。	
古典学統合データベース（芳賀人名・地下家伝）	
日本古典籍研究に関わる人物情報をデータベース化。現在、芳賀矢一（1867-1927）編『日本人名辞典』（1914）と〔三上景文著；正宗敦夫（1881-1958）編纂校訂『地下家伝』（日本古典全集刊行会、1937.9-1938.8）6冊をデータベース化したものを搭載。歴史人物画像データベースにもリンク。	
収蔵歴史アーカイブズデータベース	
史料館旧蔵の資料群を中心とした当館収蔵歴史資料（アーカイブズ）の概要データベース及び資料目録データベース。	
和刻本漢籍総合データベース	
当館収集のマイクロ資料中の和刻本の序跋刊記情報と所蔵和刻本の画像等を提供するデータベース。現在、序跋刊記情報のみ。	
古筆切所収情報データベース	
『古筆切提要』以後に影印刊行された古筆切類の所収情報データベース。約23,000件。	
アーカイブズ学文献データベース	
アーカイブズ学に関する国内研究文献のデータベース。個々の文献で章立てがあるものは「内容」に全て採録。16,270件。	
日本実業史博物館コレクションデータベース	
日本実業史博物館準備室旧蔵資料の内の絵画・器物・広告の資料情報6,936件と13,643件の画像を公開している。	
館蔵神社明細帳データベース	
当館所蔵の戦前期における全国の神社明細帳に関する神社名・所在地・社格に関するデータベース。内務省管轄の公簿として作成された原本は当館において閲覧提供している。43,187件。	
伊豆菰山江川家文書データベース	
財団法人江川文庫が所蔵する古文書・文芸関係の目録情報を同文庫との協業により公開。	
伝記解題データベース	
当館所蔵の典籍やマイクロフィルムに収載される人物伝・人物叢伝の内容の解題と、どんな人物が収載されているかをデータベース化。	
日本文学国際共同研究データベース	
科研費基盤研究（S）「国際コラボレーションによる日本文学研究資料情報の組織化と発信」により構築された、海外の研究論文目録や論文画像のデータベース、翻訳作品データベース等。	
史料所在情報データベース	
国内各地に伝来する資料群の所在・概要情報データベース（詳細版は利用登録制）。	
蔵書印データベース	
当館所蔵の古典籍を中心に原本から採取した蔵書印情報を、印影とともに一覧するデータベースシステム。他館の画像DBを参照した蔵書印情報や『近代蔵書印譜（初編～五編）』をはじめ数点の蔵書印譜からも印影等を収載。採録対象は、いわゆる蔵書印に加え、仕入れ印や貸本屋印を含む書肆印、蔵書票・書肆票の類、また、写本等で作成に関わった人物の印記や書画等の落款に及ぶ。	
増田太次郎広告コレクションデータベース	
増田太次郎氏（1905-1990、戦後雑誌「宣伝」を主宰、宣伝広告のコンサルタントとして活躍、1965年から広告史研究に没頭、1975年から（株）オリコミサービス顧問）が収集した広告類約2万点を2009年に（株）オリコミサービスから寄託を受けました。その主要部分を占める約8,700点の第一次公開分書誌・画像データベースです。二次利用については所蔵者である（株）オリコミサービスの許可が必要です。	
近世語彙カードデータベース	
「近世語彙カードデータベース」は、故松崎仁氏（立教大学名誉教授）が生前作成された、歌舞伎・浄瑠璃用語をはじめとする、約15万枚の近世語彙カードのデータベースである。手書きのノート・メモをそのまま収録しており、判読等の手間を要するものであるが、膨大な数のカードを保存・公開することによって、近世語彙研究・近世演劇研究進展の一助とすることを計るものである。	
所蔵機関との連携による日本古典籍デジタル画像データベース	
広島大学附属図書館に所蔵される200点を超える「読本（よみほん）」コレクションのうち、平成23年度は、43点分を最新のデジタル画像として公開する。本コレクションは、高い資料的価値を認められながら、様々な事情で実見の難しい時期が続いていたが、本DBにより、古典籍資料の共有化への貢献が可能になった。	
北米日本古典籍所蔵機関ディレクトリ	
日本の古典籍を所蔵する北米の各機関について、住所、連絡先、所蔵規模、コレクション概略、閲覧の可否、複写の可否、目録の有無などの情報を英語で提供。一部機関については日本語でも情報提供。東アジア図書館協議会（CEAL）日本資料委員会の元に組織された日本古典籍小委員会が情報を取り纏め、国文学研究資料館がデータベースとして公開。	

(平成25年3月現在)

表3 平成24年度 主なデータベースの利用状況

データベース名	種 類	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
図書・雑誌所蔵目録(OPAC)	検索件数(h)	37,682	40,884	40,651	40,252	37,451	42,775	51,420	58,240	45,778	40,158	33,338	34,499	503,128
国文学論文目録データベース	検索件数(i)	60,928	83,940	76,101	78,968	51,736	60,663	116,077	87,807	106,827	66,281	40,944	39,537	869,809
日本古典籍総合目録データベース	検索件数(i)	45,341	50,170	48,670	51,977	57,883	43,691	48,851	55,052	48,487	53,491	52,435	52,554	608,602
所蔵和古書・マイクロ/デジタル目録データベース	検索件数(i)	6,215	7,880	8,137	8,701	9,245	6,857	7,828	7,652	6,916	7,810	8,326	8,099	93,666
日本古典資料調査データベース	検索件数(i)	1,334	1,256	1,298	2,039	1,365	1,180	1,606	1,384	1,110	1,315	1,103	775	15,765
近代書誌・近代画像データベース	検索件数(i)	1,066	1,038	2,056	2,514	4,149	1,014	1,447	2,295	3,524	3,729	2,827	7,168	32,827
明治期出版広告データベース (個別広告検索)	検索件数(i)	337	357	345	414	323	312	987	451	1,052	328	317	733	5,956
大系本文(日本古典文学)データベース (2012.5.24公開)	検索件数(i)	—	503	796	1,272	982	1,048	1,148	1,300	1,396	1,146	754	1,236	11,581
大系本文(断本)データベース (2012.5.24公開)	検索件数(i)	—	532	797	1,187	428	477	638	662	847	1,146	754	438	7,906
古典選集本文データベース(二十一代集)	検索件数(i)	1,831	3,047	7,034	4,154	1,274	1,054	2,817	2,568	1,854	2,620	1,767	1,444	31,464
古典選集本文データベース(吾妻鏡)	検索件数(i)	980	1,387	1,186	1,148	888	1,067	1,294	980	1,480	1,054	793	812	13,069
古典選集本文データベース(歴史物語)	検索件数(i)	473	665	579	470	275	405	726	619	712	664	434	332	6,354
歴史人物画像(古典キャラクター)データベース (全文検索版)	検索件数(i)	1,426	1,965	2,449	2,780	4,816	2,303	3,464	5,277	4,620	4,451	3,240	2,732	39,523
歴史人物画像(古典キャラクター)データベース (HTMLページ)	ページ閲覧数(a)	12,366	16,600	13,777	18,184	18,271	16,775	20,530	19,871	17,640	20,999	18,446	24,989	218,448
新奈良絵本画像データベース	ページ閲覧数(a)	2,653	2,170	2,215	3,208	2,908	2,328	3,560	2,546	1,688	4,323	1,667	2,901	32,167
史料情報共有化データベース	検索件数(i)	2,341	1,911	1,727	2,269	1,989	2,186	3,971	2,827	4,147	2,423	2,063	2,985	30,839
古事類苑データベース (テキスト版)	ページ閲覧数(a)	28,231	32,604	25,667	23,649	27,174	23,893	32,504	30,868	23,885	28,485	24,471	24,740	326,171
古典学統合データベース(地下家伝・芳賀人名辞典)	検索件数(i)	533	785	257	327	320	330	398	422	1,946	1,549	354	435	7,656
収蔵歴史アーカイブズデータベース	利用回数(i)	452	577	347	425	516	365	453	542	408	301	524	512	5,422
蔵書印データベース	検索件数(i)	3,032	1,717	1,717	2,125	1,835	1,696	2,777	3,342	3,388	4,350	3,162	1,902	31,043

動作環境

(i) : InfoLib

(a) : apache

(h) : HelloLibrary

3. 情報資料サービス事業部

【総括】

平成23年度から計上されたデジタル化の特別予算では、当館所蔵原本のデジタル化を進めるとともに、他機関所蔵原本を当館がマイクロフィルムで収集したもののデジタル化も推進している。今年度は、所蔵原本を約2,500点、マイクロフィルムを約8,000点のデジタル化を行った。

デジタル画像公開の進展にともない、画像閲覧件数が大幅に増えている。今後、原本資料の来館利用・複写利用からネットワーク経由での利用に移行していくことが考えられる。

一方で、画像閲覧件数以外の統計を見ると減少傾向が見られる。デジタル化に起因するか、今後の推移に注目したい。

【図書資料の収集および受入・整理】

(1) 概 要

図書資料委員会で所蔵資料全体を考慮して計画をたて国文学・歴史分野図書、古典籍原本等を収集している。マイクロ資料の目録作成に関しては、滞貨の解消に努め、今年度は約2,700件の書誌データの登録を行った。画像のウェブ上での公開には、対象資料の目録作成が不可欠であるため、収集マイクロフィルムからの画像公開が決定した文庫については、目録作成を優先したことがある。

(2) 活動記録

①資料の受入

今年度の受入資料数は以下のとおりである。

資料1 図書資料受入統計

			点数等		冊数等	
			平成24年度	累積	平成24年度	累積
収集マイクロ資料	マイクロフィルム	日本文学	1,442点	187,833点	356リール	41,842リール
		歴 史	0件	193件	0リール	5,859リール
	マイクロフィッシュ	日本文学	0点	0点	0枚	57,358枚
	紙 焼 写 真 本	日本文学	-	-	0冊	75,122冊
		歴 史	-	-	0冊	11,196冊
図書	写 本 ・ 版 本		256点	13,631点	1,663冊	49,606冊
	活 字 本・ 影 印 本 等		-	-	3,996冊	170,569冊
	逐 次 刊 行 物		1,687誌	8,514誌	-	-
所 蔵 史 料			4件	473件	-	約500,000点
寄託資料・寄託史料		日本文学	0件	9件	0冊	10,137冊
		歴 史	0件	17件	0件	7,032点

②貴重書・特別コレクションの指定

貴重書7点を指定した。

資料2 新指定貴重書

請求記号	書名等
99：167	蜻蛉日記（写、3冊）
99：168	嵯峨本 方丈記（刊、1帖）
99：169	毘沙門堂本 古今集注（写）
99：170	人倫訓蒙図彙（刊、7冊）
99：171	賦何路連歌（写、1軸）
99：172	京童（刊、6冊）
99：173	江都 名所図絵（写、1巻）

③資料の整理・目録作成

a. マイクロ資料目録作成

- ・書誌データ作成 約6,100件
- ・書誌データ登録 約2,700件

資料3 マイクロ資料目録データベース登録一覧

文庫番号	所蔵者	サービス区分	リール番号	件数
6	筑波大学附属図書館	B'	410-477	115
11	京都大学文学部（頼原文庫）	B	230-237	103
55	陽明文庫	E	779-783	180
90	宮城県図書館（伊達文庫）	B'	202-223	126
260	東京都立中央図書館（東京誌料）	B'	192-199	32
270	東京都立中央図書館（特別買上文庫）	B'	22-33	28
278	大須文庫	B'	141-199	359
281	盛岡市中央公民館	A'	992-1001	135
305	愛知県立大学附属図書館	B'	222-236	54
338	杵築市立図書館	A'	107-125 153-175	160
358	肥前島原松平文庫	A'	171-195	631
363	鳥取県立図書館	A	198-221	90
365	韓国国立中央図書館	D	95-223	311
㊦9	大庭脩*	A	1-1	1
㊦1	善通寺	A'	192-220	321
㊦5	濱口博章*	A	1-1	4
				2650

* 新規整理文庫

b. 和古書・明治期資料の整理

- ・和古書の整理 1,424点
- ・明治期資料の整理 1,893点
- ・和古書目録書誌データ作成（登録） 382点

- ・明治期資料の書誌データ作成（登録） 430点
- c. 活字本・影印本の整理・目録作成 3,876冊
- d. 歴史関係図書・逐次刊行物の遡及入力

旧史料館所蔵の図書・逐次刊行物の目録遡及入力を継続して行っている。図書は3年間で全体約80,000冊のうち26,872件がOPACで検索可能になった。逐次刊行物は国文との重複所蔵タイトルの所蔵巻号の移動調整を開始し、約923タイトルの所蔵巻号の一本化をおこなった。

【資料の保存】

(1) 概要

原形を尊重した保存・修復措置を継続的にしている。

(2) 活動記録

①文書・記録類の保存・修復処置

- a. 史料目録刊行済みのものについて、閲覧用ラベル貼付、中性紙封筒・帙・箱等への収納、状態調査記録作成、虫損・剥離箇所への部分修復処置等を行った（14,771点、「信濃国松代真田家文書」）。

その他、必要に応じて別置分の組込、中性紙封筒・箱等への入替、部分修復処置等を行った（439点、「静岡県敷知郡吉津村文書」「山城国京都久世家文書」「徴古雑抄」ほか）。

- b. 山名八幡宮関係史料（武蔵国江戸蜷川家文書）16点の補修を行った（専門家に依頼）。

②古典籍原本の保存・修復処置

- a. 新収資料の害虫処理

新規受入資料は窒素発生装置および脱酸素剤の使用により常時、殺虫処理を行っている。

- b. 補修

虫損が著しく閲覧・撮影が困難な高乗勲文庫の『太平記・秋夜長物語』（写1冊）ほか14点を補修専門家に依頼した。

【利用者サービス】

(1) 概要

①所蔵資料のデジタル化

平成23年度から5年計画でデジタル化の特別予算が付き、所蔵原本のデジタル化と他機関原本のマイクロ収集分のデジタル化を推進している。

今年度は、貴重資料及び原本のデジタル撮影約2,500点を行った。

②インターネットでの画像公開

現在、所蔵和古書の貴重書・特別コレクション・一般和古書約7,800点を公開している。また、収集マイクロフィルムは、15文庫約16,200点が公開済みである。

(2) 活動記録

①資料の閲覧及び複写

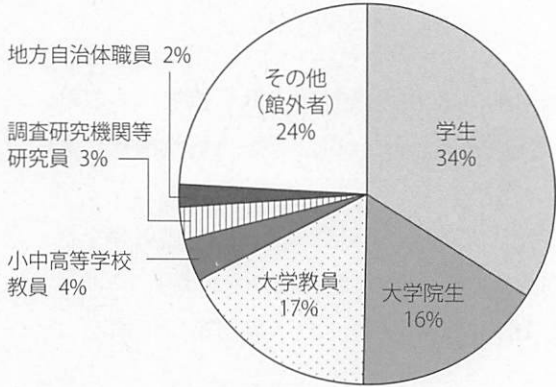
平成24年度の開館日数は248日、新規登録者は1,297人、来館利用者数は7,421人で、前年に比較すれば微減ではあるが、順調に利用されている。

閉架資料の利用状況についても、ほぼ平年通りであった。

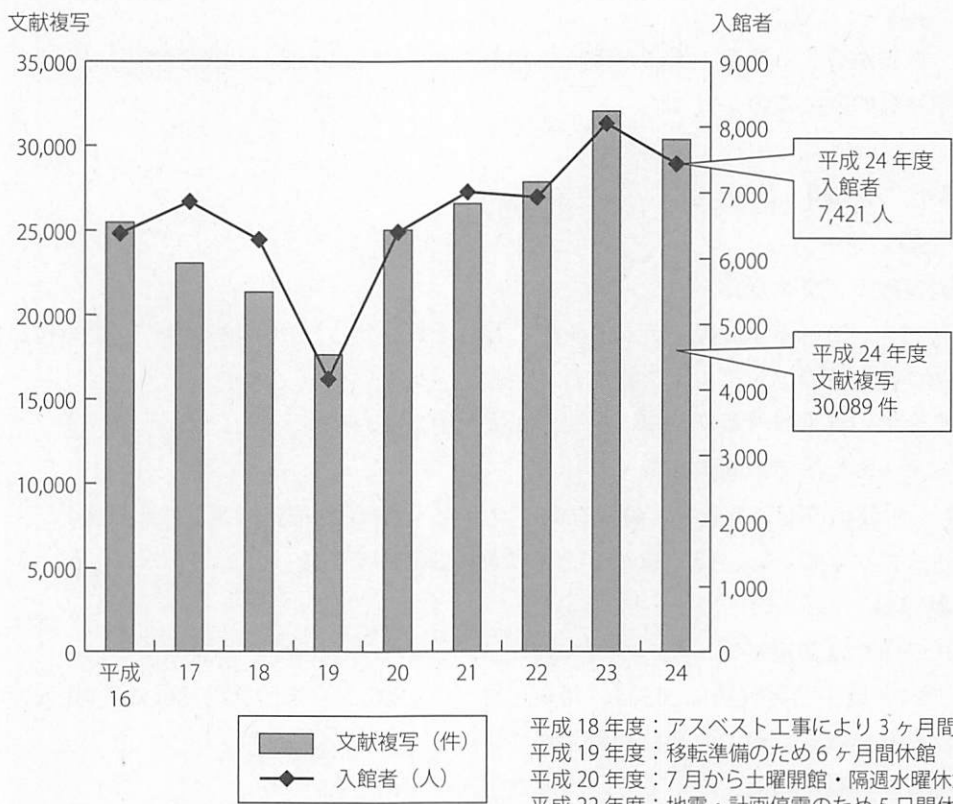
資料4 来館利用者の構成

利用者内訳	平成24年度
学生	2,530
大学院生	1,207
大学教員	1,284
小中高等学校教員	262
調査研究機関等研究員	216
地方自治体職員	130
その他（館外者）	1,792
総 計	7,421

資料5 来館利用者数比較



参考資料 来館利用者数推移



平成 18 年度：アスベスト工事により 3 ヶ月間休館
平成 19 年度：移転準備のため 6 ヶ月間休館
平成 20 年度：7 月から土曜開館・隔週水曜休館
平成 22 年度：地震・計画停電のため 5 日間休館、
2 日間正午以降休館

②相互協力サービス

文献複写受付は昨年並みである。他館との比較では、ILL 文献複写受付件数は、受付をした参加組織1,178館中35位であり、資料の共同利用に貢献している。

また、現物貸借受付は、64件、うち図書51件、紙焼写真本13件であった。

資料6 相互協力件数

項 目		受 付		依 頼
閲覧	紹介状	-		27件
貸借	図書	51件、51冊		0件
	紙焼写真本	13件、35冊		
複写	電子複写	2,804件	21,033枚	2件
	RPによる電子複写	666件	63,136枚	19件
	フィルム複製	6件	5,177コマ	0件
	紙焼作製	-	-	-
	合計	3,477件	89,346枚	21件

③レファレンスサービス

日本文学・歴史資料分野のレファレンスサービスを継続して~~おこな~~^行った。

資料7 レファレンスサービス件数

質問の種類		平成24年度
文書による質問		34
メールによる質問	総合窓口システムへの質問	53
	問い合わせメール	294
電話による質問	所蔵調査	208
	利用についての問い合わせ	389
	内容調査	99
クイック・レファレンス（閲覧カウンターでの質問）		718
合 計		1,795

④掲載許可申請受付（今年度決裁分）

翻刻掲載 14 件、写真掲載 197 件を受け付けた。写真掲載のうち数種の要件に該当した 99 件は無償、また、翻刻掲載はすべて無償である。所蔵資料のデジタル公開の進捗に伴い、写真掲載の依頼が徐々に増加している。

⑤資料の展示貸付（展示開始が今年度のもの） 12 件

資料8 展示貸付一覧

番号	貸出機関	展示内容	展示期間	貸出資料	点数
1	茨城県立歴史館	平成24年度特別展Ⅰ 「霞ヶ浦と太平洋のめぐみ -塩づくり-」	平成24年10月～11月	「塩録(祭魚洞文庫旧蔵水産資料)」(23Z1-563-2上)	1
2	鳥取市歴史博物館	平成24年度特別展 「The 山名～山陰守護大名の栄枯盛衰～」	平成24年7月～8月	「源義渡補任状(武蔵国江戸蜷川家文書)」(1993A-18-5)ほか	15
3	人間文化研究機構 国立民族学博物館	人間文化研究機構連携展示 企画展「記憶をつなぐ-津波災害と文化遺産-」	平成24年9月～10月	「日本三代実録」巻16・巻50(ヤ2-34-8, ヤ2-34-20)	2
4	真田宝物館(長野市教育委員会文化財課)	平成24年度真田宝物館特別企画展「文人大名 真田幸弘とその時代」	平成24年10月～12月	「ちかのうら(信濃国松代真田家寄託文書)」(1018)	1
5	山梨県立博物館	山梨県立博物館・新潟県立歴史博物館企画展「『黄金の国々』展」(うち山梨県立博物館での山梨展)	平成24年10月～11月	「開山国師真前奉光子母銭帳(山城国葛野郡嵯峨天龍寺塔頭臨川寺文書)」(26N-8)	1
6	長野市立博物館	平成24年度 秋の企画展「西山地域の文化」	平成24年10月	「牧嶋村絵図(信濃国松代真田家文書)」(26A-し497-2)ほか	6
7	松江歴史館	平成24年秋の特別展「雲州松平家の大名行列-お殿様の道中と街道-」	平成24年10月～11月	「御上京一途 一上(出雲国松江松平家文書)」(24H-79-2)ほか	4
8	港区立港郷土資料館(港区教育委員会)	平成24年度特別展「江戸の大名菩提寺」	平成24年10月～12月	「大暁院様御卒去ニ付諸向御入用御勘定一紙(信濃国松代真田家文書)」(26A-あ1886)ほか	24
9	奈良国立博物館	特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」	平成24年12月	「春日懷紙」(99-87-1, 3, 19, 22)	4
10	土浦市立博物館	土浦市立博物館第34回企画展「亀城公園のひみつ-お城から公園へ-」	平成24年10月～12月	「土浦御郭内外屋敷町家之図(常陸国土浦土屋家文書)」(29D-1051-1)ほか	4
11	公益財団法人 大阪市博物館協会 大阪歴史博物館	特別展「天下の城下町 大坂と江戸」	平成25年2月～3月	「大坂御普請帳(阿波国徳島蜂須賀家文書)」(27A1-00695-1, 3, 6)	3
12	公益財団法人 サントリー芸術財団 サントリー美術館	歌舞伎座新開場記念展「歌舞伎-江戸の芝居小屋-」	平成25年3月	「役者絵尽し(99-150-1～3)」	3

【古典籍総合目録事業】

(1) 概 要

『国書総目録』(岩波書店刊)を継承発展させるものとして、古典籍総合目録作成事業を行っている。その成果として『古典籍総合目録』(当館編・岩波書店刊)を刊行し、他方、データベースを公開している。平成18年末に従来の「国書基本データベース(著作編)」「古典籍総合目録データベース」を統合し、所蔵和古書・マイクロ/デジタル目録データベースを含めた「日本古典籍総合目録データベース」を公開し、古典籍の書誌・所在情報を、著作及び著者の典拠情報とともに広く提供している。

(2) 活動記録

下記のとおりデータ作成等を実施した。

- ①データソースの収集、所蔵者との連絡(書誌情報の古典籍総合目録データベース収載公開についての依頼等)
- ②書誌データの作成(登録) 約8,000件

資料9 古典籍総合目録データの作成 所蔵者・目録一覧

所蔵者	コレクション	目録	データ数
麻布大学附属学術情報センター	白井紅白文庫 他	獣医資料館寄贈選定図書目録	43
関西大学図書館	本山コレクション	関大蔵書検索 (KOALA)	351
小平市立図書館	久下文庫和漢書	斯道文庫論集第36輯 小平市立図書館久下文庫和漢書目録	198
堺市立中央図書館	－	堺市立中央図書館蔵和漢書目録	2069
鯖江市まなべの館	進徳館旧蔵本	國文學論叢第52輯 鯖江市資料館蔵進徳館旧蔵本書目	84
実践女子短期大学図書館	奥村藤嗣文庫	実践女子短期大学 奥村藤嗣文庫目録	121
東京大学文学部国文学研究室	－	東京大学国文学研究室所蔵古典籍目録	1303
富山市立図書館	山田孝雄文庫	山田義夫文庫目録	2160
西宮市立郷土資料館	－	収蔵資料目録第一集 (西宮市立郷土資料館)	179
姫路文学館	金井寅之助文庫	金井寅之助文庫目録 和本類	1535
合計			8043

①基礎データ (典拠データ) の追加・改訂

日常的に生じる追加・改訂のほか、当館基礎データの参照がNACSIS-CATの規則に盛り込まれたことなどにより、NACSIS-CATを含む外部からの基礎データに関わる質問や改訂への要望が寄せられた。その各々について内容を厳しく検討した後、データの追加・改訂などの対応を行った。

【電子化推進事業】

(1) 概 要

古典籍業務用データベースの開発を行った。本年度は、所蔵者・コレクションに関わる入力部分の開発を行った。本開発の運用開始により、データ入力及び公開作業の効率の向上が見込まれる。

(2) 活動記録

①システム維持・更新

- a. 画像公開システムの表示速度を向上させるため、画像公開方式の変更、画像形式の一括変換を行った。
- b. 業務データベース (マイクロ目録・館蔵和古書目録・古典籍総合目録で共用) の開発を前年度に引き続き行った。

②デジタル画像公開

- a. 所蔵和古書のリンク作業
- b. 収集マイクロデジタル化の支援
- c. 収蔵歴史アーカイブズデータベースほか画像公開の支援
- d. 画像管理データベースの作成

資料10 主な画像公開データベース

所蔵和古書・マイクロ／デジタル資料目録データベース	館蔵和古書画像 約 8,400件 収集マイクロ画像 約14,100件 (デジタル収集を含む)
収蔵歴史アーカイブズデータベース	約3,100件
近代書誌・近代画像データベース	約3,300件
日本実業史博物館コレクション	約7,000件

資料11 古典籍デジタル画像閲覧統計（上位30件と総計）

書名（請求記号）	件数
洛陽名所集（99：55）	386
絵本三国妖婦伝（国文2221N）	324
一休譚後編／画本うす紫（大国2300）	322
絵本通俗三国志（大国2372）	313
愛日楼文詩／附日光山行記（ナ8-20-1～4）	268
絵本忠臣蔵／後篇（国文5312）	230
土屋正義編輯／絵本石山軍記（大国2402）	229
八百屋お七／絵本胡蝶夢（大国2606）	226
白馬節会雨儀次第並雜例（伏・260）	214
絵本曽我物語（大国2355）	212
絵本朝鮮征伐記（大国2403）	206
絵本一休譚（大国2615）	206
絵本合邦辻（国文5316N）	199
絵本朝鮮軍記（国文3867N）	191
画本玉藻譚（大国2616）	188
絵本漢楚軍談（大国2404）	185
絵本甲越軍記（国文4290N）	180
絵本豊臣勲功記（国文2176N）	163
絵本雪鏡談（大国2354）	160
絵本義経記（国文4583N）	158
菅原附録／絵本不知火草紙（国文4677N）	158
絵本呉越軍談（国文3853N）	157
春宵奇譚／絵本壁落穂（大国2400）	157
絵本菅原実記（大国2353）	157
絵本亀山話（国文4360N）	155
絵本鎌倉実記（国文3873N）	153
絵本忠臣蔵／後篇（国文5312N）	151
絵本月宵鄙物語（国文4758N）	148
絵本敵討待山話（国文4357N）	147
絵本呉越軍談（国文3855N）	141
総計	191,075

※作品単位リクエスト件数を集計

4. 学術企画連携部

i) 国際交流室

【第36回国際日本文学研究集会】

日 程：11月17日（土）・18日（日）

場 所：国文学研究資料館大会議室

主 催：国文学研究資料館

テーマ：「再生の文学－日本文学は何を発信できるか－」

目 的：日本文学研究による研究発表・講演・討議により、広い視野からの日本文学研究の進展を図り、研究者相互の国際交流を深めるため、毎年度秋に開催している。

参加者：115名（外国人37名、日本人78名）

*研究発表者等は、一般応募者の中から国際日本文学研究集会委員会の決定に基づき、主として若手研究者を対象として選考した。

*発表時間が25分の研究発表、発表時間が15分のショートセッション及び資料掲示による説明コーナーでの発表（ポスターセッション）を設けている。

*研究発表12本、ショートセッション6本、ポスターセッション5本及び公開講演1本が行われた。

*研究集会参加者が、開催中の特別展示「樋口一葉「たけくらべ」自筆原稿展」及び研究展示「江戸の「表現」－浮世絵・文学・芸能」についても見学できるようプログラムの調整を行った。

【国際シンポジウム等の開催】

1 日本古典籍（くずし字）講習会

日 程：1月28日～1月30日

場 所：パリ日本文化会館（フランス共和国）

主 催：国文学研究資料館

共 催：日本関係資料専門家欧州協会（EAJRS）

目 的：日本学資料専門ライブラリアンやキュレーター、学生、研究者を対象に、ヨーロッパの各国各地の機関が現地主催機関として開催する。講師は当館教員が日本語で行い、年1～2回開催する。

2 第4回日本文学国際共同研究集会

日 程：9月22日～9月23日

場 所：Grand Hotel Baglioni（イタリア共和国・フィレンツェ）

主 催：国文学研究資料館（AISTUGIA 連携）

テーマ：第4回日本文学国際共同研究集会『日本文学のことばの力』

目 的：専門的な学術発表を行うとともに、イタリア若手研究者及び大学院生の発表についてコメントを述べるなど指導的発言を行うことにより、多くのイタリア日本文学研究者と交流を深める。

参加者：30名（外国人20名、日本人10名）

今西祐一郎、伊藤鉄也、山下則子、青田寿美、海野圭介

3 「中国古典籍の総目録－『中国古籍総目』の編纂事業」研究会

日 程：2月5日

場 所：国文学研究資料館第1会議室

主 催：国文学研究資料館

テーマ：『中国古籍総目』の編纂について

目 的：中国古典籍の専門家を招聘し、現在出版中の中国古典籍の総目録－『中国古籍総目』の編纂事業について紹介していただくとともに、古典籍に関する交流を深める。

参加者：18名

*復旦大学図書館の呉格氏を講師として招聘した。

[参考]

上記のほか、科学研究費等により当館教員が主導又は深く関与している国際研究集会等は次のとおりである。また、教員個々の海外の国際学会への参加（講演・研究発表を含む）も多い。

- (1) 7月25日に韓国国立中央図書館（大韓民国）において、韓国国立中央図書館との共催で「第3回 日韓古典籍研究交流会」を開催した。
- (2) 9月7日～8日に慶應義塾大学において、当館とコレージュ・ド・フランス、東アジア文化研究所及び慶應義塾大学附属研究所斯道文庫との共催で、国際シンポジウム「断片のディスコース―書翰・草稿・詠草―」を開催した。
- (3) 9月17日～19日にライデン大学図書館（オランダ王国）において、国際共同研究に伴う資料調査を人間文化研究機構の日本関連在外資料国際共同研究で行った。
- (4) 9月24日にフィレンツェ大学（イタリア共和国）において、国際研究集会「日本古典籍における【表記情報学】」を開催した。
- (5) 11月25日に上海師範大学（中華人民共和国）において、人間文化研究機構連携研究「9-19世紀文書資料の多元的複眼的比較研究」により、「近世東アジアにおける紛争解決と文書」というテーマで国際シンポジウムを開催した。
- (6) 3月11日～13日にバチカン図書館（イタリア共和国）において、マレガ文書の調査打ち合わせを実施予定。
- (7) 3月11日～15日にフランス国立図書館（フランス共和国）及びライデン大学図書館（オランダ王国）において、国際共同研究に伴う資料調査を実施予定。
- (8) 3月19日～22日に韓国国立中央図書館（大韓民国）において、古典籍資料を通じての国際交流を実施予定。

【外国人研究員の招聘】

1 朴晋燮氏

所 属・職 名：仁川大学校・人文大学日語日文学科・助教授

期 間：6月8日～9月7日

研究内容：日本近世における日記の史料学的研究

2 マティアス・ハイエク氏

所 属・職 名：パリ第7デイドロ大学・東洋言語文化学部・准教授

期 間：6月10日～9月23日

研究内容：近世初・中期の博物学の成立と実態の基礎的研究－百科事典と日用百科を中心に

上記の他、外来研究員としてチトコ・マウゴジャタ・カロリナ氏（ハワイ大学マノア校東アジア言語・文学科PhDcourse）、盧俊偉氏（北京外国語大学日本学研究センター博士課程後期）、ルイス・クック氏（ニューヨーク市立大学クイーンズ校准教授）、スミス・クリストファー氏（ハワイ大学マノア校日本文学部研究生助教）を受け入れた。

【学術交流協定による国際交流】

- 1 イタリアにおける日本文学国際共同研究集会
- 2 北京外国語大学日本学研究センターとの学術交流協定に基づき外来研究員として1名受け入れた。
- 3 コレージュ・ド・フランス等と共催で国際シンポジウム「断片のディスクール―書翰・草稿・詠草―」を開催。
- 4 ライデン大学図書館でシーボルト関係日本古典籍の共同調査。

ii) 展示企画室

【展 示】

1 人間文化研究機構連携展示「都市を描く―京都と江戸― 第Ⅱ部「江戸名所と風俗画」

概 要：国立歴史民俗博物館と当館の教員を中心に、「都市風俗画研究会」として人間文化研究機構連携研究などによる研究を行ってきたことを踏まえ、人間文化研究機構に所蔵されている資源を中心に、洛中洛外図屏風や風俗画を中心とする絵画と「名所図会」などの絵入りの版本を扱った展示を、連携展示の形で公開した。

（平成23年度から引き続きの開催）

日 程：平成24年3月28日（水）～5月6日（日） 28日間

※5月5日（土・祝）、6日（日）は開催

※日曜、月曜は休室

※4月30日（月）・5月3日（木・祝）、4日（金・祝）は休室

場 所：当館展示室

主 催：国文学研究資料館

鑑賞者：1,470名

2 国文学研究資料館創立40周年特別展示「鴨長明とその時代 方丈記800年記念」

概 要：今年が『方丈記』執筆800年になるのを記念して、特定研究「大福光寺本「方丈記」を中心とした鴨長明作品の文献学的研究」（研究代表者：成蹊大学教授・浅見和彦）の研究成果により、「鴨長明とその時代」をテーマに特別展示を行った。

日 程：平成24年5月25日（金）～6月23日（土） 22日間

※日曜、月曜は休室

場 所：当館展示室

主 催：国文学研究資料館

後 援：中世文学会、東京新聞

鑑賞者：1,806名

3 通常展示「和書のさまざま―書誌学入門―」

概要：定期的に実施している通常展示であり、《本》のさまざまな形態を体系的に紹介しながら、日本の古典籍がどのように読み伝えられてきたのかを紹介した。

日程：平成24年7月19日（木）～9月7日（金） 37日間

※土曜、日曜、祝日は休室

場所：当館展示室

主催：国文学研究資料館

鑑賞者：799名

4 研究展示「江戸の表現―浮世絵・文学・芸能―」

概要：近世に特徴的に現れた表現様式（職人歌合、見立て、尽くしもの、地口等）についての歴史的展開や分野を超えた交流に関する特定研究「近世的表現様式と知の越境―文学・芸能・絵画による総合的研究―」の研究成果を展示した。

日程：平成24年10月17日（水）～11月20日（火） 27日間

※10月21日（日）、22日（月）、27日（土）、28日（日）、

11月4日（日）、5日（月）、10日（土）、11日（日）は休室

場所：当館展示室

主催：国文学研究資料館

鑑賞者：2,064名（※「たけくらべ」展との延べ人数）

5 国文学研究資料館創立40周年特別展示「樋口一葉「たけくらべ」自筆原稿展」

概要：当館の社会連携活動の一環として、立川市に伝わる資料である無門庵所蔵の「たけくらべ」原稿を展示し、あわせてそれが掲載された『文芸倶楽部』『文学界』も展示した。

日程：平成24年11月12日（月）～11月20日（火） 9日間

場所：当館展示室

主催：国文学研究資料館

鑑賞者：928名（※会期中「江戸の表現」展との延べ人数）

6 通常展示「新収品・新寄託品展 古筆のたのしみ」

概要：当館所蔵資料で近年収集した和歌、古筆の資料及び近年寄託された資料（坂田穂好古筆切コレクション、松野陽一氏資料）を展示した。また、重要文化財に指定された「春日懷紙」を指定された記念として公開した。

日程：平成24年12月12日（水）～平成25年1月11日（金） 16日間

※土曜、日曜、祝日、12月28日～1月6日は休室

場所：当館展示室

主催：国文学研究資料館

鑑賞者：727名

7 人間文化研究機構連携展示「企画展 記憶をつなぐ―津波災害と文化遺産―」

概要：東日本大震災において、当館が国立民族学博物館・国立歴史民俗博物館と協力して行った文化遺産のレスキュー活動を報告するとともに、これまでの大震災での記憶の継承事例に

ついて紹介した。

日 程：平成25年1月30日（水）～3月15日（金） 33日間

※日曜、月曜、祝日は休室

場 所：当館展示室

主 催：国文学研究資料館、国立民族学博物館、国立歴史民俗博物館

後 援：国立文化財機構、文化財保存修復学会、日本文化財科学会、日本民具学会、日本民俗学会、
追手門学院地域文化創造機構、財団法人千里文化財団

協 力：産経新聞社、共同通信社

鑑賞者：923名

iii) 広報出版室

【講演会】

1 連続講座

日本文芸の普及を図り、古典について広く深く理解してもらうため、第一線で活躍している研究者による連続講演（全5回）を、平成12年度から開催している。平成24年度は少人数での連続講座という形式を取り、当館今西祐一郎館長による、「くずし字で読む『源氏物語』」講座を開催した。

名 称：平成24年度連続講座

テーマ：くずし字で読む『源氏物語』

講 師：今西祐一郎（当館館長）

日 程：10月2日、10月9日、10月16日、10月23日、10月30日

15時00分～16時30分

第1回 10月 2日（火） 28名

第2回 10月 9日（火） 29名

第3回 10月16日（火） 28名

第4回 10月23日（火） 27名

第5回 10月30日（火） 29名

場 所：当館2階オリエンテーション室

参加者数：141名（延べ）

2 サテライト講座

当館が品川区から立川市へ移転したことを踏まえ、移転前から来館していた閲覧者など、都心の利用者に向けた講座をエッサム神田ホールで開催した。

本年は「近代文学」をテーマに谷川恵一教授、青田寿美准教授が講演を行い、各講演終了後に参加者から多数の質問が出るなど、大変盛況であった。

名 称：平成24年度サテライト講座

テーマ：近代文学

講 師：「“書脈”を追う―典籍に残された印と証」 青田寿美（当館研究部准教授）

「明治の時間・明治の文学」 谷川恵一（当館研究部教授）

日 程：12月8日（土）13：00～16：00

場 所：エッサム神田ホール

参加者数：43名

3 シンポジウム「描かれた都市の風俗と名所—江戸を中心に—」

3月28日（水）～5月6日（日）に当館にて開催した人間文化研究機構連携展示「都市を描く—京都と江戸—第Ⅱ部「江戸名所と風俗画」」の関連イベントとして、国立歴史民俗博物館及び当館の教員が講師を担当して開催した。

名 称：シンポジウム「描かれた都市の風俗と名所—江戸を中心に—」

講 師：「本展示のE-learning化」 中村康夫（当館教授）
「浮世絵に見る江戸名所の変遷」 大久保純一（国立歴史民俗博物館教授）
「描かれなかった都市」 岩淵令治（国立歴史民俗博物館准教授）
「十九世紀江戸の職人尽絵」 大高洋司（当館研究部教授）

日 程：4月14日（土）13：00～15：00

場 所：当館2階大会議室

参加者数：78名

4 人間文化研究機構 第18回公開講演会・シンポジウム「不安の時代をどう生きるか—鴨長明と『方丈記』の世界—」

人間文化研究機構では、構成する6つの研究機関が結ばれたメリットを生かしさまざまな研究活動をしており、これによって得られた成果を広く周知するために、定期的に公開講演会・シンポジウムを開催している。

第18回公開講演会・シンポジウムは当館が担当し、平成24年は鴨長明が『方丈記』を書き終えた年（建暦2年（1212年）3月）からちょうど800年後に当たる年であることから、これを記念して開催した。

名 称：人間文化研究機構 第18回公開講演会・シンポジウム

「不安の時代をどう生きるか—鴨長明と『方丈記』の世界—」

講 師：《講演》

「転換期の歌人長明の鬱情」 馬場あき子（歌人）
「方丈を生きる」 山折哲雄（元国際日本文化研究センター所長）
《シンポジウム》

「いま、長明と『方丈記』を読みなおす」

パネリスト／荒木 浩（国際日本文化研究センター教授）

磯 水絵（二松学舎大学教授）

浅見和彦（成蹊大学教授）

コメント／馬場あき子（歌人）

山折哲雄（元国際日本文化研究センター所長）

朗読／和田 篤（元NHKアナウンサー）

司会／寺島恒世（当館研究部教授）

日 程：5月19日（土）13：00～17：00

場 所：イイノホール

参加者数：383名

5 「古典の日」講演会

11月1日が「古典の日」と法制化されたことを記念し、逸翁美術館館長で当館名誉教授でもある伊井春樹氏・当館の大高洋司教授が講師を担当して開催した。

名 称：平成24年度国文学研究資料館「古典の日」講演会

講 師：「京伝と馬琴―悪女の描き方―」 大高洋司（当館研究部教授）

「『源氏物語』の場面について」 伊井春樹（逸翁美術館館長、当館名誉教授）

日 程：11月1日（木）14：00～16：00

場 所：当館2階大会議室

参加者数：152名

【アーカイブズ・カレッジ】

多様な史資料を取扱う専門的人材を養成するため、長期コース・短期コースをそれぞれ年1回開催した。また、カリキュラム等の改善を図るため、講義を担当する教員を中心にカリキュラム研究会を実施した。

長期コースは、前期7月17日（火）から4週間、後期8月27日（月）から4週間の日程で国文学研究資料館において開催し、36名（うち2名は特別聴講）が受講した。受講者のうち史料保存機関職員や大学教職員などの社会人は12名、大学院生は24名であった。なお今年度、長期コースの全6科目を修了した23名に修了証書を授与した。短期コースは、11月13日（火）～18日（日）に福井県文書館の施設をお借りして開催し、33名が受講した。受講者のうち史料保存機関職員や大学教職員などの社会人は27名、大学院生は6名であった。

①長期コース

日 程：7月17日（火）～8月10日（金）、8月27日（月）～9月21日（金）

場 所：当館2階オリエンテーション室ほか

受講者：36名（うち2名は特別聴講）

②短期コース

日 程：11月13日（火）～22日（木）

場 所：福井県文書館

受講者：33名

【日本古典籍講習会】

日本古典籍講習会は、日本古典籍の整理・目録化を促進し、広く活用されるよう環境の整備を図るため、書誌学の専門知識や整理方法の技術修得を目的として、各所蔵機関の図書館員等を対象に、平成15年度から開始したもので、今年度で10回目である。第1回の平成15年度は、海外の図書館員等を対象として5日間開催、16年度は国立国会図書館の協力を得て開催、17年度からは、国立国会図書館との共催で開催している。第2回（16年度）以降は、国内の図書館員等を対象に3日間開催している。今年度は、平成25年1月23日（水）から25日（金）の3日間に開催し、最初の2日間は当館で、最終日は国立国会図書館を会場として行った。大学図書館等26名、公共図書館等6名、計32名が受講した。

日 程：1月23日（水）～25日（金）

場 所：当館2階大会議室、国立国会図書館

受講者：32名

【エフエムたちかわでの番組放送】

当館の活動を広報すると共に、多くの方に国文学に触れていただくことを目的として、「エフエムたちかわ」での番組放送を平成24年度から開始した。講師を武井協三名誉教授にお願いして「歌舞伎を話そう」という番組名で、平成24年10月～平成25年3月の間、毎週1回10分間の放送を行っている。

【夏休み子ども見学デー】

毎年8月に開催している「夏休み子ども見学デー」を8月7日（火）に開催した。「夏休み子ども見学デー」は、法人化された平成16年度から実施しているもので、今回が9回目となる。今年は対象を小学校4年生～6年生に絞り、立川市やその周辺地域の小学校にチラシを配布するなどして参加者の募集を行った。

当日の参加者は小学生20名の他、立川第10小学校の校長先生及び保護者の方7名が参加した。

イベントは、最初に今西祐一郎館長の挨拶があった後、閲覧室等の見学が行われ、その後青柳隆志氏（東京成徳大学人文学部教授）を講師として十二単衣の着装の実演を行い、引き続きカルタ取り大会が行われた。カルタ取り大会では、今年も3名の講師（青柳隆志氏、兼築信行氏（早稲田大学文学学術院教授）、内池三郎氏（日本国語教育学会理事））をお招きし、狩衣姿で宮中歌会始めと同じ読み方で百人一首の和歌の披講が行われた。

日 程：8月7日（火）14時00分～16時30分

場 所：当館2階大会議室

内 容：(1) 館内見学

(2) 十二単衣の着装

青柳隆志（東京成徳大学人文学部教授）

(3) 百人一首カルタ取り大会

青柳隆志（東京成徳大学人文学部教授）

兼築信行（早稲田大学文学学術院教授）

内池三郎（日本国語教育学会理事）

参加者：27名（内訳：子ども20名、保護者等7名）

【出版関係】

1 平成24年度国文学研究資料館紀要の発行

当館教員の研究成果を社会に還元する一環として、年度毎に研究紀要を発行している。

平成24年度は、文学研究篇第39号、アーカイブズ研究篇第9号を刊行した。

2 研究成果刊行促進制度

本制度は、当館の研究をより広く社会に還元するため、研究成果の出版を希望する当館の共同研究に対して、内容等を審査の上で、出版に要する経費の一部を当館が負担し、出版物の刊行を促進することを目的として実施している。

平成24年度は、1件の申請があり、学術企画連携部広報出版室において、外部委員を含めた審査会を実施した結果、1件の申請を採択し、本制度を適用することとした。

3 国文研ニュースの発行

当館の広報記事や研究内容を紹介する定期刊行物として年に4回発行する。

平成24年度は、27号～30号の4冊を発行し、関係機関に配布するとともに、催し物の際に来館者に配布した。

4 概要の作成

平成24年度の当館概要を作成した。

【広報関係】

1 多摩モノレール「高松駅」での広報活動

ー昨年8月より、多摩モノレール「高松駅」改札内の広報用展示スペースを借用し、当館の広報スペースとして概要等の展示を実施している。なお、この広報については、来年度も継続していく予定である。

2 立川地区の広報誌「えくてびあん」への掲載

立川地区で無料配布されている月刊広報誌「えくてびあん」において、平成22年9月号より平成23年10月号までの全14回、当館の教員に焦点を当てた事業内容紹介の記事を連載した。

今年度については不定期で、展示やシンポジウム等に関わる記事を掲載した。

3 カレンダーの作成

当館のカレンダーを新たに作成し、関係各所へ配布した。今後も毎年作成していく予定である。